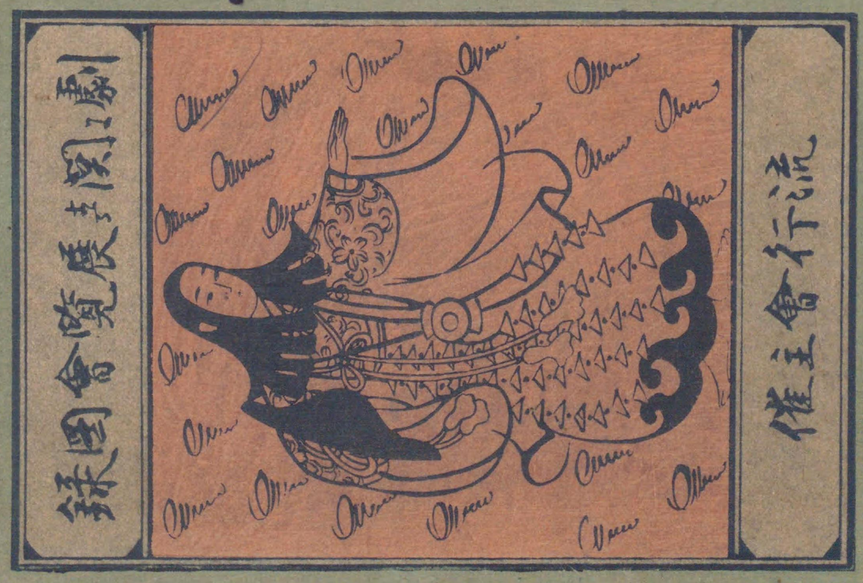
Kodak Gray Scale
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40



774.
Y228g

774.Y228g

『劇に關する展覽會』を開かまほしとのわか願ひは、千九百六年倫敦に在りける折より、わか胸をば去る事なかりき。彼處にて劇に關する事どもを研究しても行くほどに、此記錄かの繪畫を見まほしと思へども、劇に關する圖書材料は、圖書館博物館にも意外にすくなくて、一々知れる人々の紹介をもとめ、さて箇人の書齋について一見を乞ふわづらわしさ、かゝる時劇に關する諸種の材料を一目に見得る展覽會やうのもの、たゞ一日にても催されんには、わが渴望は忽ちに癒されんものをと、われは知れる限りの俳優劇作家なんどに喞ちたるも幾度なりけん。故郷に歸りて後は、わが思ふ事すべて蹉躓し、彼地にて獲來りたる劇に關する智識は、其萬一をだに世に公けにする機會もなくて悶々の日を送りたるものから、さすがに此展覽會開催の企ては、すべて死灰となりける、わが心の底にも餘熱をとゞめて、機會ある毎に最後の閃光を放たんものと思ひ居たりき。幸ひに時は終に至りぬ。今玆二月二十日といふに、流行會の人々主催となりて、『劇に關する展覽會』といふを東京なる三越呉服店に開くべく決定せられ、久保田米齋氏とわれとはもつぱらそのすべてに當る事とはなりぬ。かくてわれらが希望に贊同して門外不出の什寶を貸し與へられし人々實に百十有餘人、東京大阪の俳優さては好劇家等の大多數は爭つて出品せられ、ローシー氏の如き外國紳士すら出品を辭せられざりき。されば集まれる點數は三千有餘に上り、劇道に關する諸般の材料は殆んど陳列されざるはなく、其陳列せられしものはいづれも代表的ならざるはなかりき。然れば滿都の耳目一時はたゞ此會にのみ集まりて、一週間の豫定なりし會期は十六日にさへ延べられ、大阪なる三越呉服店も亦同じ催をなす事とはなりぬ。藝術の出版に深き憧憬を有する京都の書肆芸艸堂、かゝる企ての屢

国立国会図書館 29.3.19

323392

ば繰返さるべくもあらず、從つて斯る名作逸品の一堂に蒐まる機會の亦甚だ罕なるべきを思ひ、その出品中の特にすぐれたるを選みて寫眞に撮し取り、展覽會の圖錄を作らましと請ひ來りぬ。げに此度の出品中には、其名こそ人の耳に傳はりたれ、其實物は所有者以外の目に觸れざる物も尠からず。幸ひにかゝる逸品をば一卷に集め置かば、わが倫敦に於て感じたると等しき苦痛をば、自國に於て感じつゝある人々より除き去るよすがとなりなんか。かくて流行會の人々と其所有者より許しを受け、其圖錄を作る事とはなりぬ。わが夙夕の願ひもこゝに酬はれて、喜ばしともよろこばし。

英國の名優准男爵デヨーヂ、アレキサンダアはわがかこち言を聞きたる一人なりき。此人また今茲二月十九日といふに、おのが持座なる倫敦聖(セント)ヂエームス座にて、『演劇紀念物展覽會』といふを催し、過去現在の有名なる劇作家と男女俳優とが、記錄、肖像、印刷物、さては舞臺の內外にて用ひたる寶石、刀劍なんどを公衆に展觀せしむべしとぞ傳へらる。時はひとしくきさらぎの末つかた、たゞ一日を前後せしのみにて、われもかれも同じ企てをなしたる事、たゞ暗合とのみ云ひ棄てんには口惜き節あるに似たり。今圖錄成り、そのゆゑよしを記すにあり、東西揆を同うする劇壇の機運を見て、今更にふかき感慨をとどめもあへず。

大正四年三月

三越吳服店流行會室に於て

松居松葉

凡例

一、本編に採錄したるものは、流行會主催の、劇に關する展覽會に出陳せられたる記念の秘藏品を集めたる也。

一、本編に收めたるものは、出品中の一部に止りて、總てを網羅し盡ほゞとしては尚ほ遺憾とする所なれども、亦已むを得ざる也。

一、本編圖版の順序に就きては、敢て上下の別をなしたるに非ず、單に從來、慣例に從ひて配列したる也。

一、本編に掲載すべかりし名品にて、遂に缺くるの已むを得ざりしものあり。

一、本編の記事は極めて、表題及び解說等は必要最小限を網羅したり。

後篇の引受は、市川宗家の所藏にて、為に歷代の當主に當りたる代目團十郎の姿、もしくは當り藝の人物を描きたるもの、衣裳に使用したる武具、道具の者附、腰兵糧の類、もしくは當り狂言（當り狂言とは）頭取の事）頭取等の所藏にて貴三越吳服店流行會部の寶品なり。

凡例

□本編に採録したるものは、流行會主催の、劇に關する展覽會に出陳せられたる、諸家の秘藏品を集めたる也。

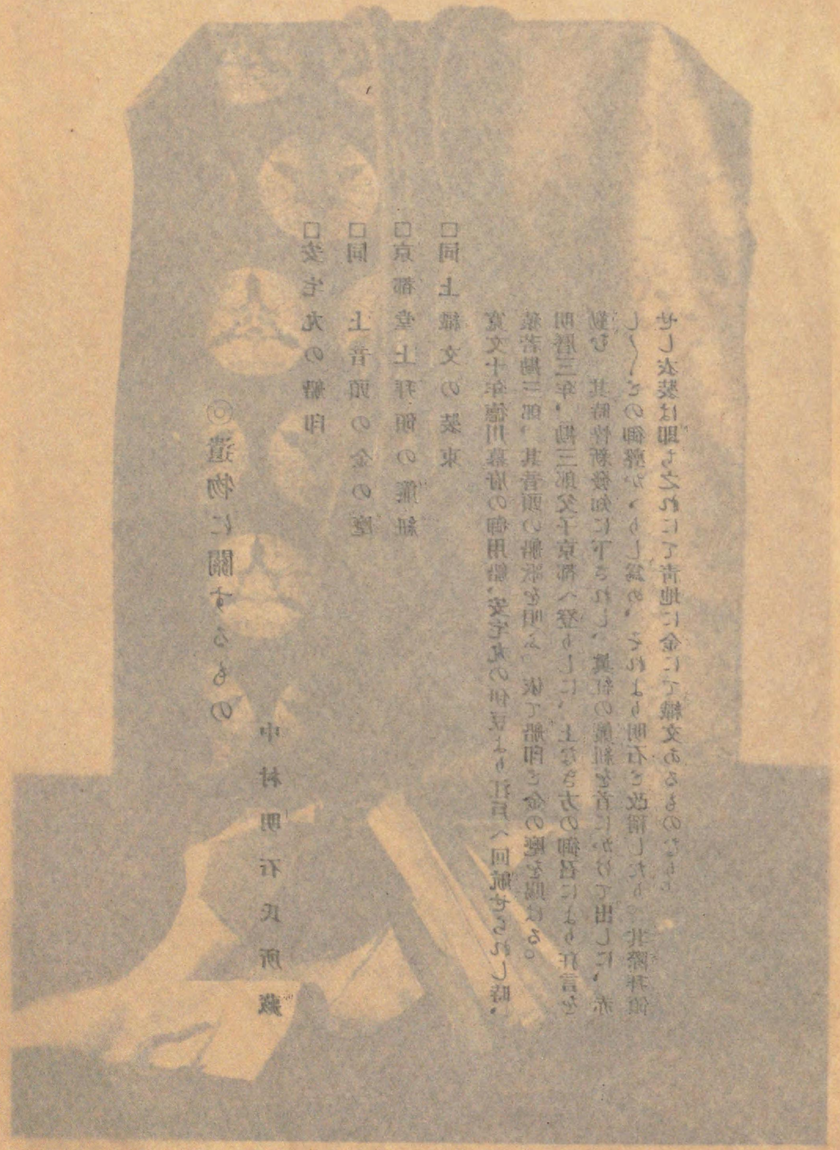
□本編に收めたるものは、出品中の一部に止りて、總てを網羅し能はさりしは洵に遺憾とする所なれども亦已むを得さる也。

□本編圖錄の順序に就きては、敢て上下の別をなしたるに非す、類に從ひ、品に應じて配列したる也。

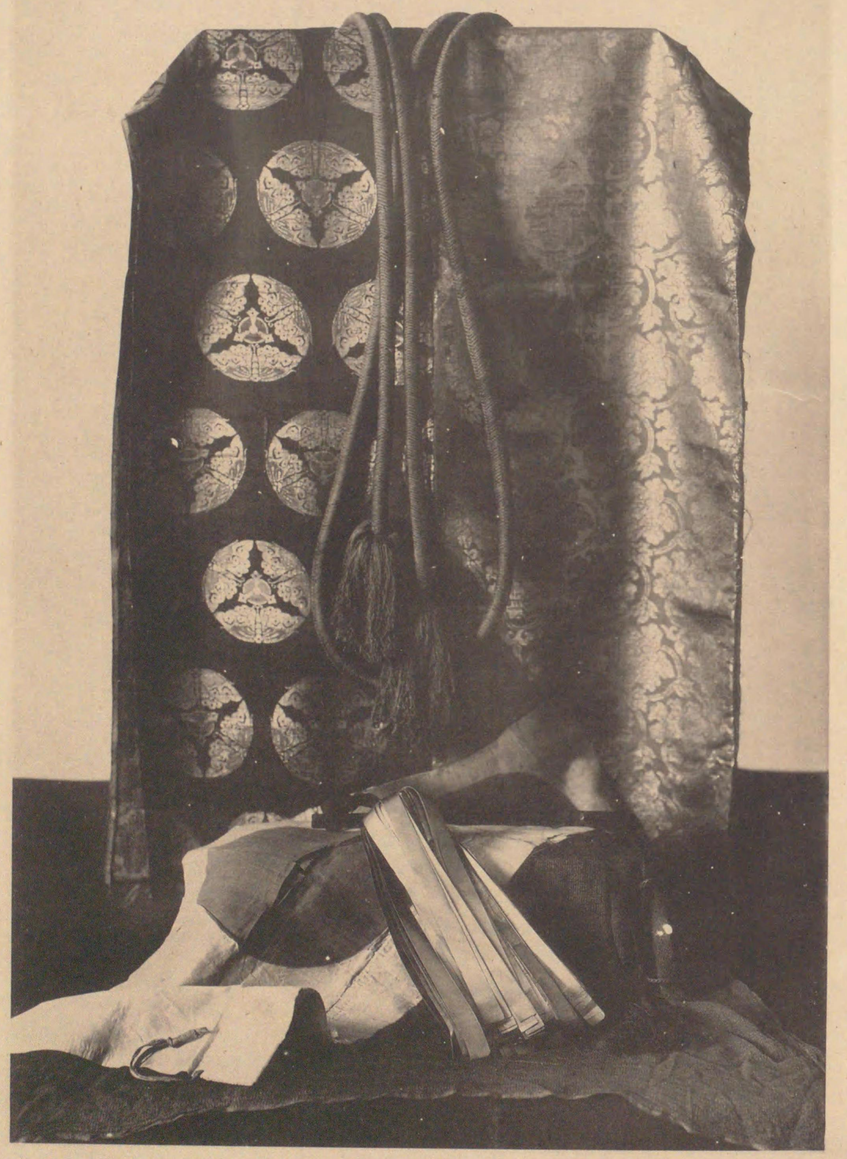
□本編に採錄すべかりし名品にて、逸したるものは佗日續篇として完璧を期すること、あるべし。

□本編の序文は松居氏に、表紙及び解說等は久保田氏を煩はしたり。

後面の引幕は、市川宗家の所藏にて、鳥居清貞の自筆に成り九代目團十郎の得意、もしくは當り藝の人物を描きたるもの。前面に陳列したる衣裳類は、唐織の着附、關兵衛のぶつかへり、傾城の前帶(俎と稱す)同縫模樣の裲襠にて皆三越演劇衣裳部の藏品なり。



中林明行久河戦

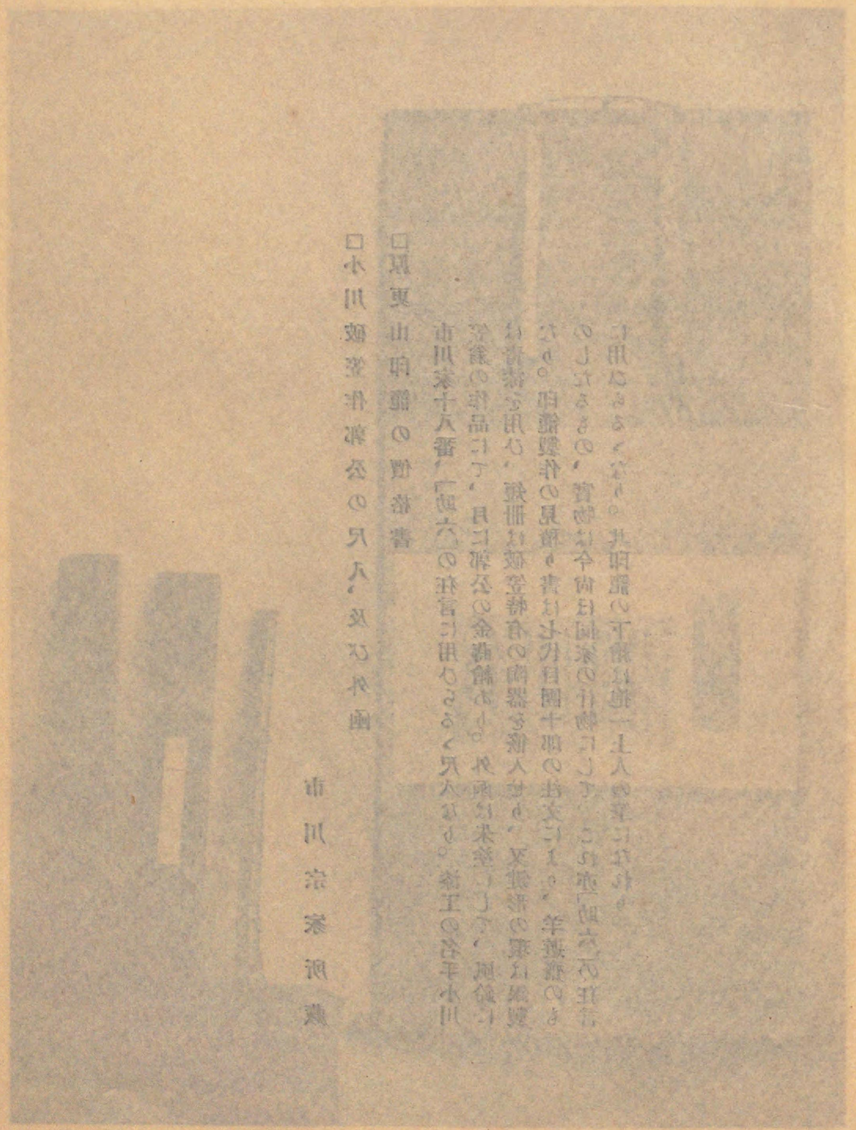


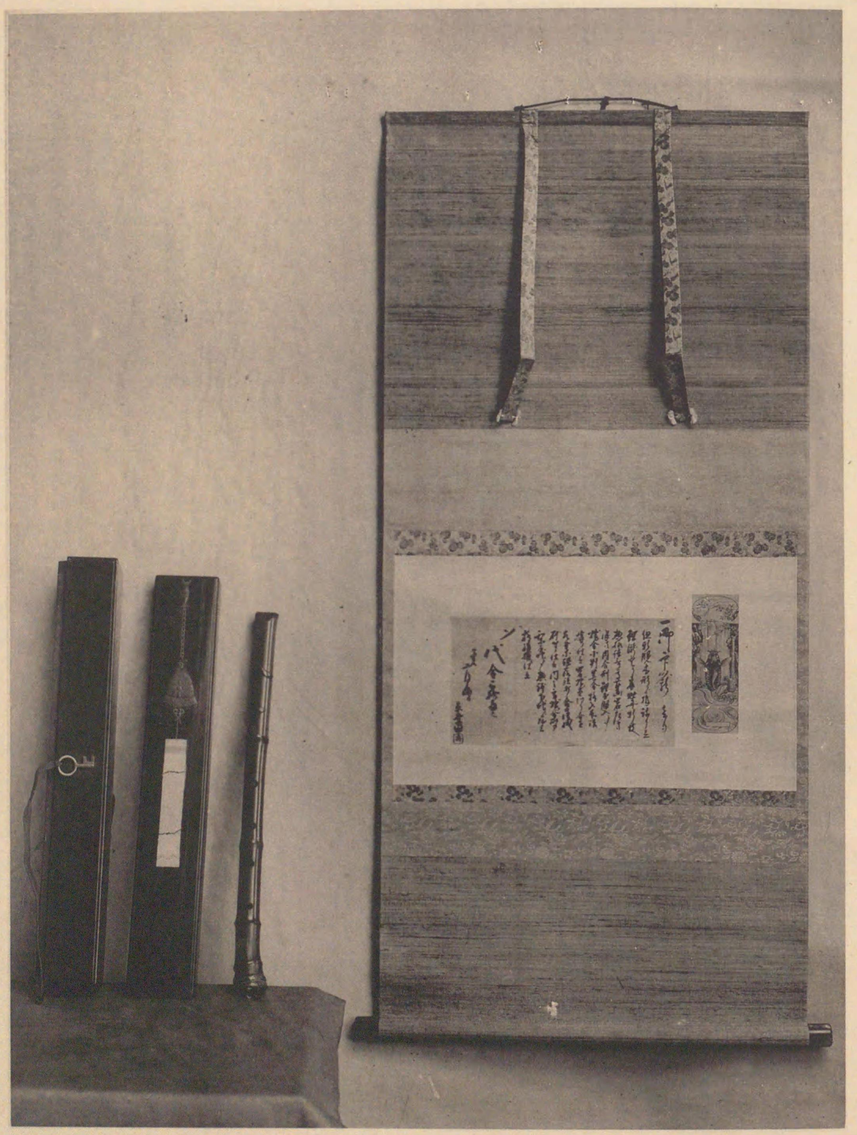
◎遺物に關するもの

中村明石氏所藏

□安宅丸の船印
□同　上音頭の金の麾
□京都堂上拜領の簾紐
□同上織文の裝束

寛文十年德川幕府の御用船、安宅丸の伊豆より江戸へ回航せられし時、猿若勘三郎、其音頭の船歌を唄ふ。依て船印と金の麾を賜はる。明曆三年、勘三郎父子京都へ登りしに、上なき方の御召により狂言を勤む。其時悴新發知に下されし、眞紅の簾紐を首にかけて出しに、赤し〳〵との御聲かゝりし爲め、それより明石と改稱したり。其際拜領せし衣裝は即ち之れにて靑地に金にて織文あるものなり。





□小川破笠作郭公の尺八、及び外函

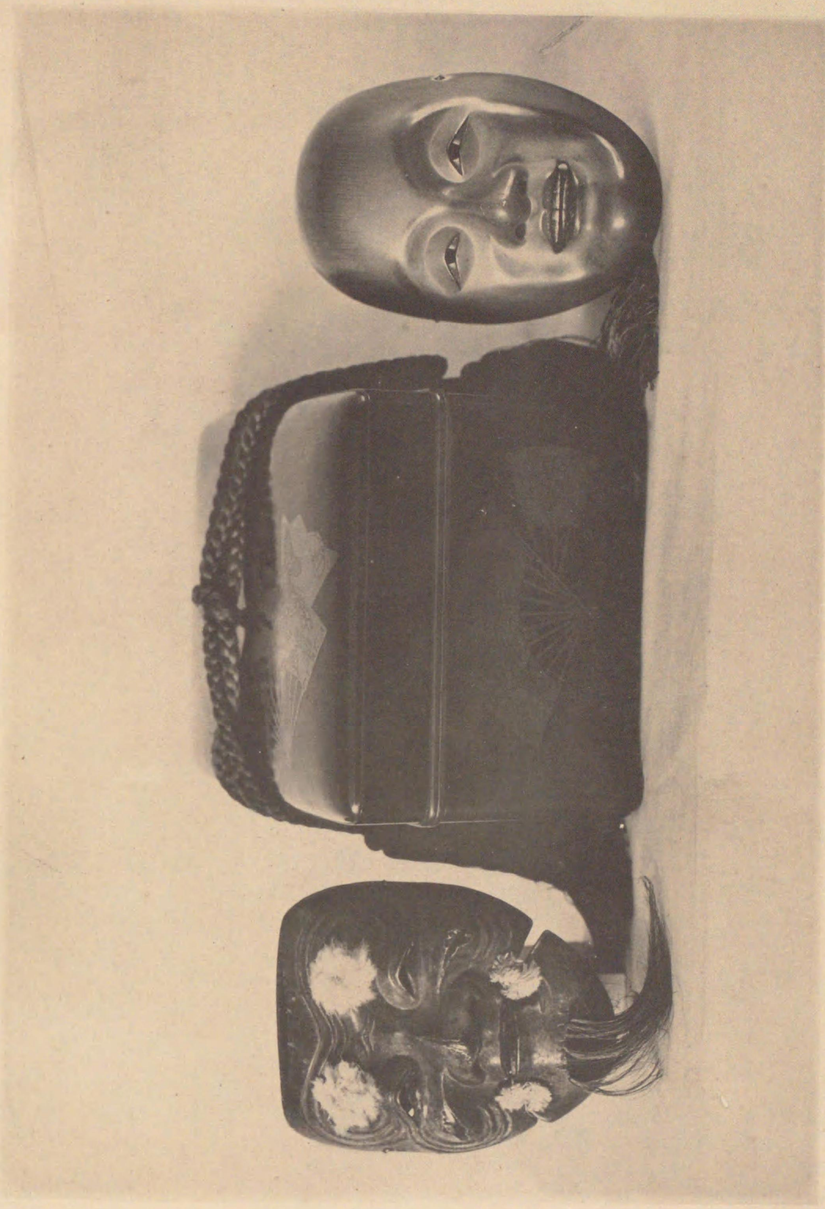
□原更山印籠の價格書

市川宗家所藏

市川家十八番、「助六」の狂言に用ひらるゝ尺八なり。漆工の名手小川笠翁の作品にて、月に郭公の金蒔繪あり。外函は朱塗にして、風鈴には青漆を用ひ、短冊は破笠特有の陶器を嵌入せり、又鍵形の環は銀製なり。印籠製作の見積り書は七代目團十郎の注文により、羊遊齋のものしたるもの、實物は今尚ほ同家の什物にして、これ亦「助六」の狂言に用ひらるゝなり。其印籠の下繪は抱一上人の筆になれり。

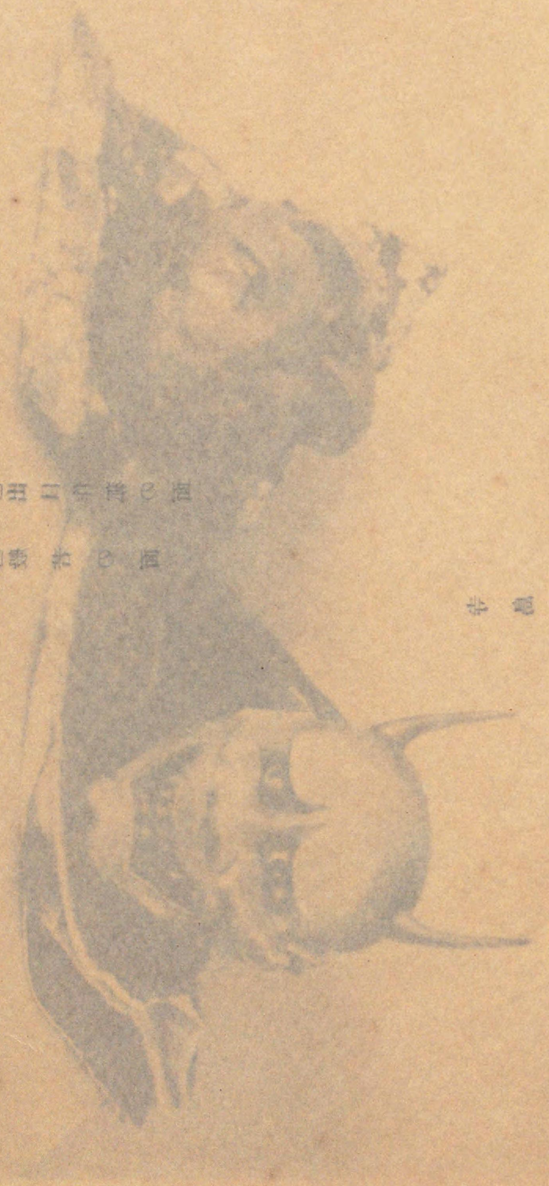
□所有權屬、夫三藩河用○面部及心面

所有權屬於他夫河藏



河原崎權之助氏所藏
面及び面箱

□河原崎座、式三番所用の面箱及び面



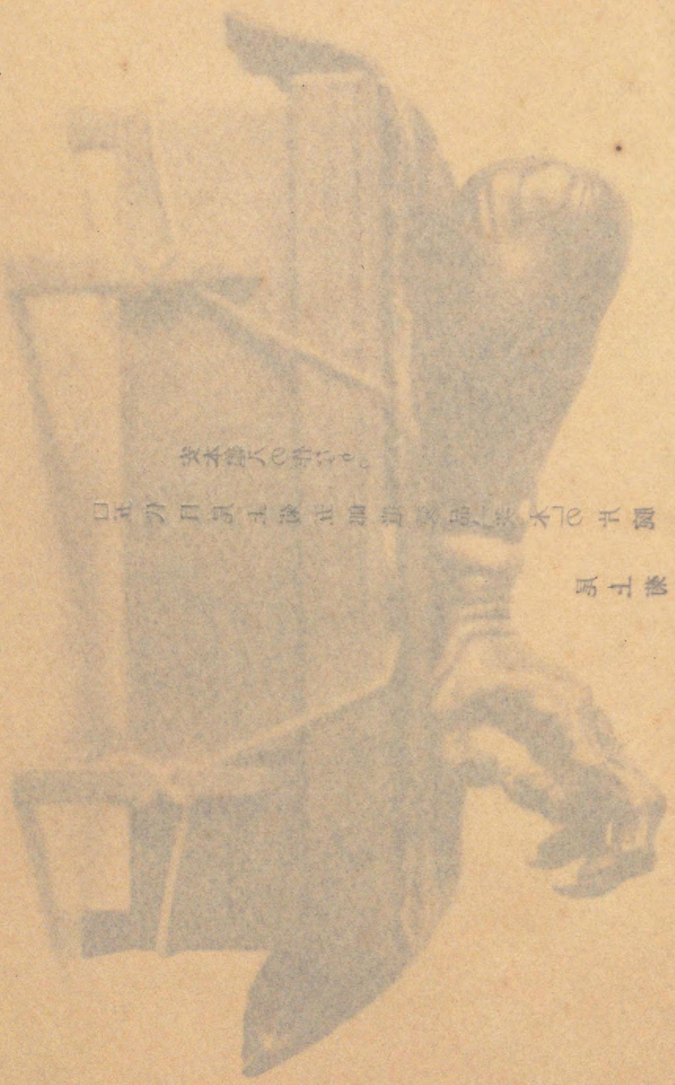
323392

323392

寺島里氏所藏

□般若の面

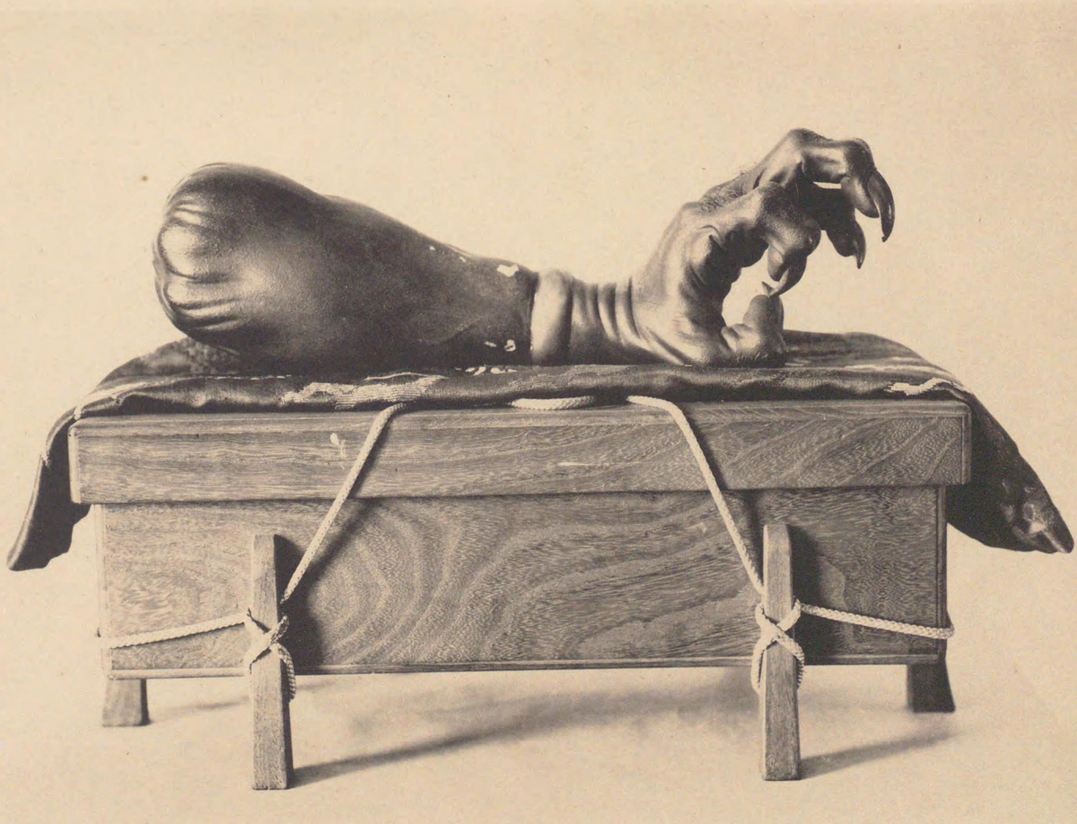
□出目作狐の面

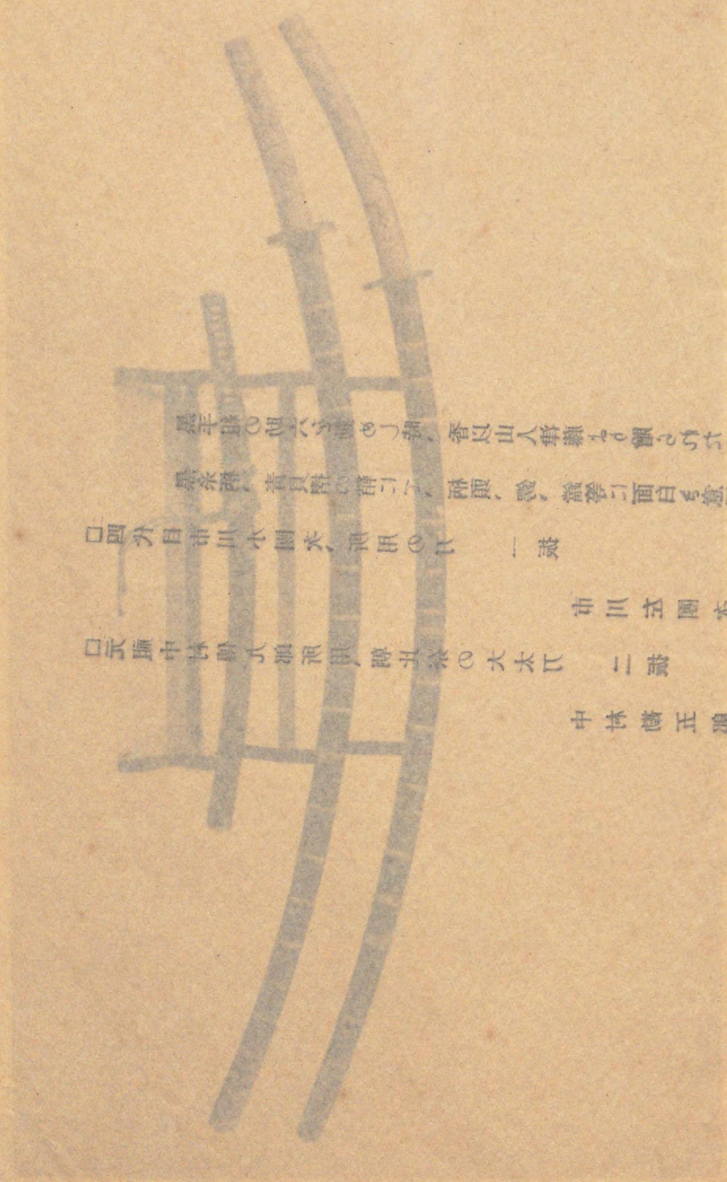


尾上菊五郎氏所藏

口五代目尾上菊五郎遺愛品「茨木」の片腕

安本龜八の作なり。





中村勘五郎氏所藏

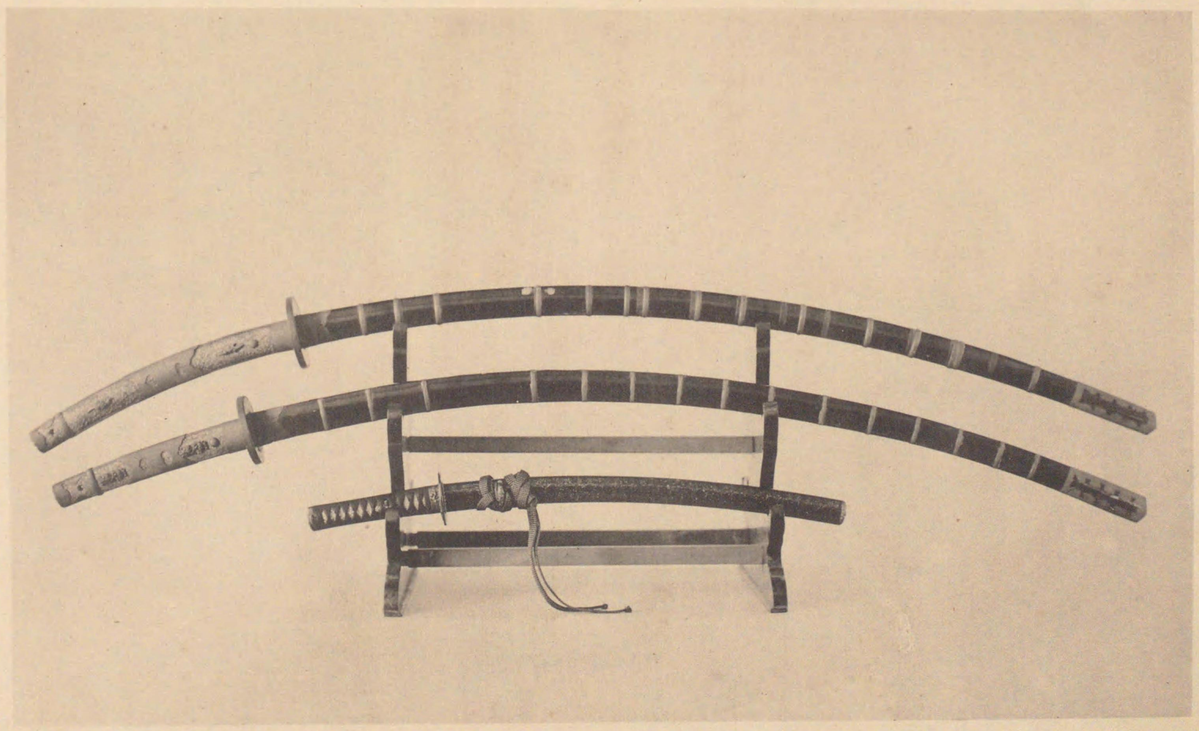
市川左團次氏所藏

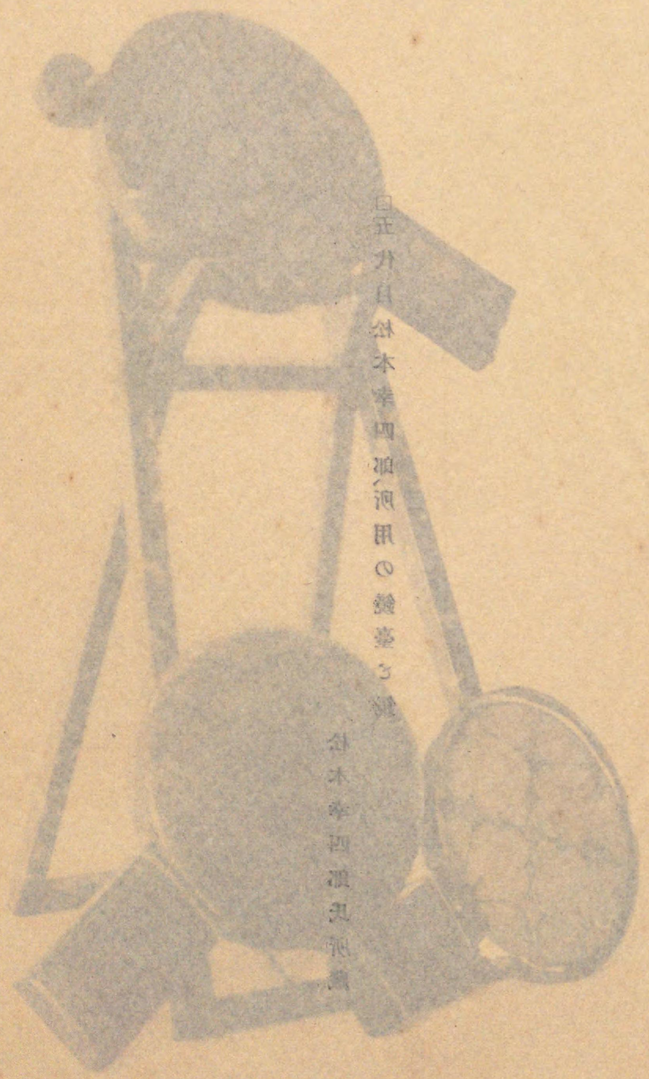
口元祖中村傳九郎所用、朝比奈の大太刀　二振

口四代目市川小團次、所用の刀　一振

黒糸柄、青貝摺の鞘にて、柄頭、鍔、鐺等に面白き意匠あり。

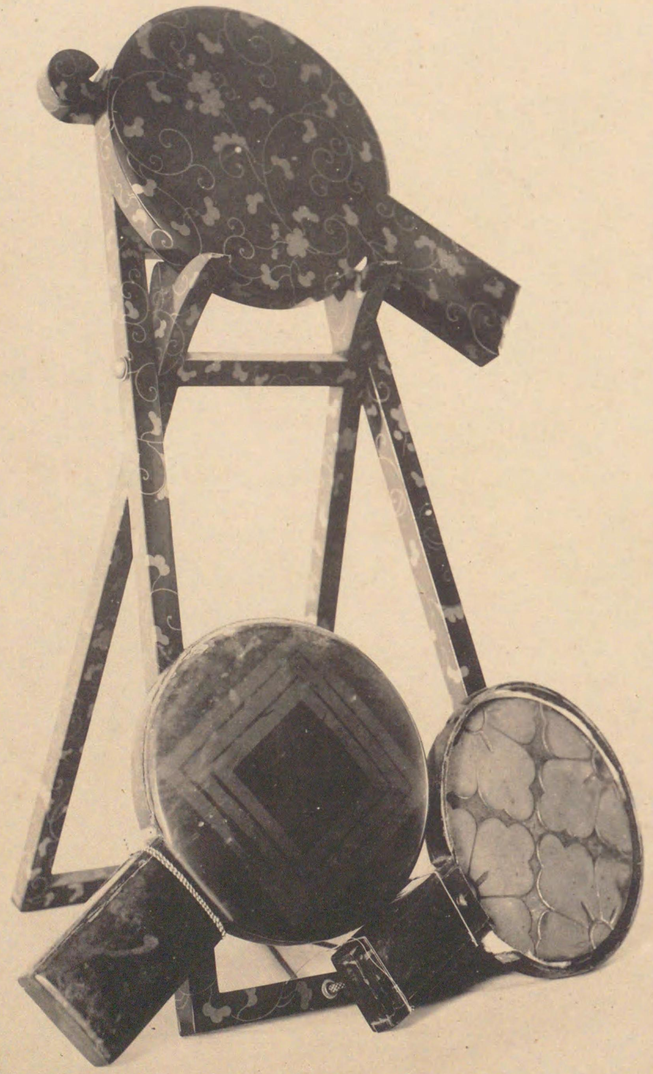
黒手組の助六を勤めし時、香以山人津藤より贈られたるもの也。





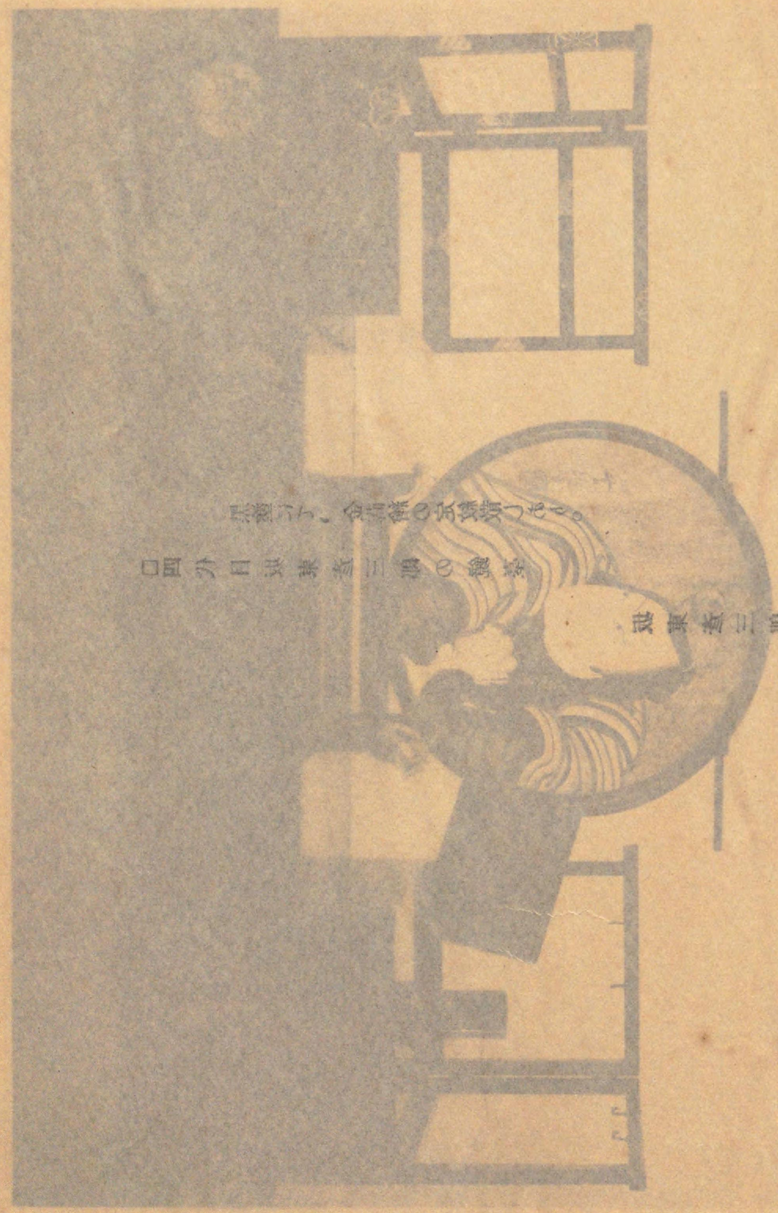
□正月日松本幸四郎河里の鍵臺と鍵

松本幸四郎丸河里



□五代目松本幸四郎、所用の鏡臺と鏡

松本幸四郎氏所藏



坂東彦三郎氏所藏

口四代目坂東彦三郎の鏡臺

黑塗にて、金蒔繪の定紋散しあり。

伊勢　堀内快堂氏所藏

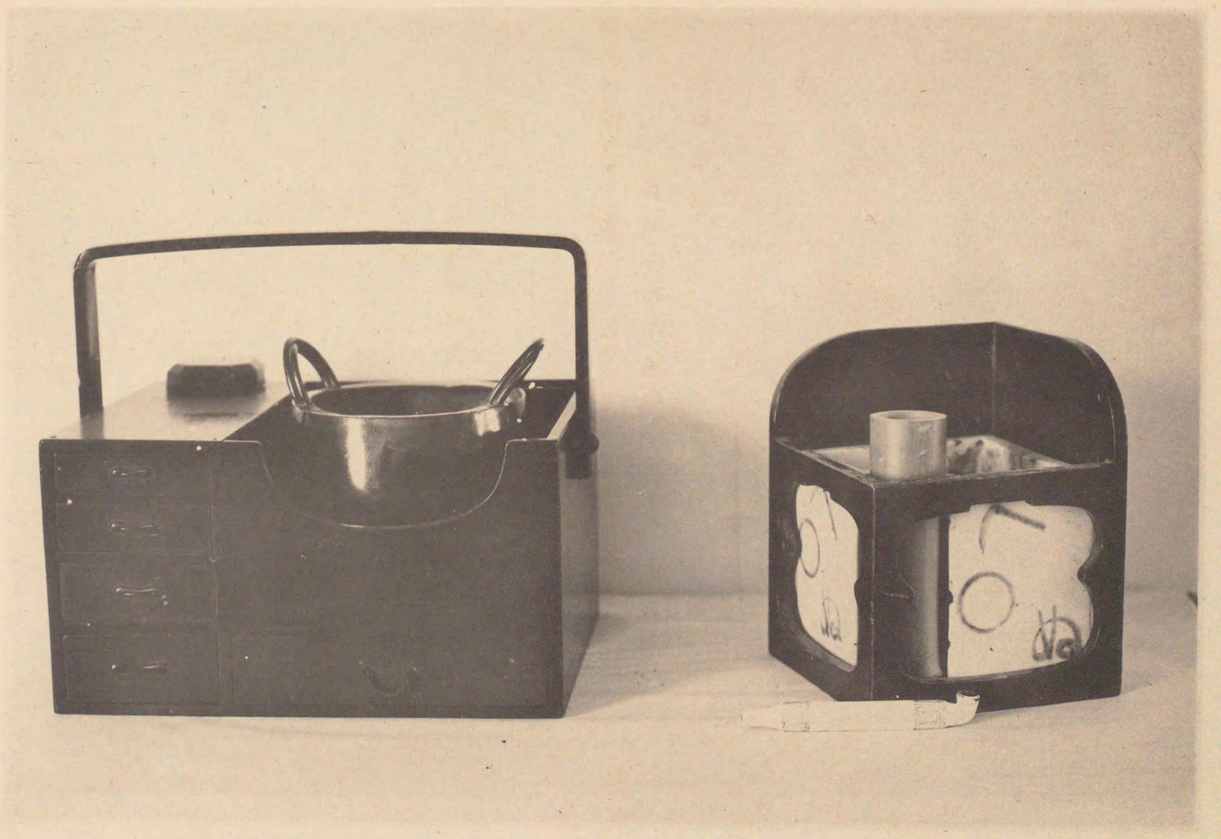
□七代目圍十郎遺物の煙草盆と煙管

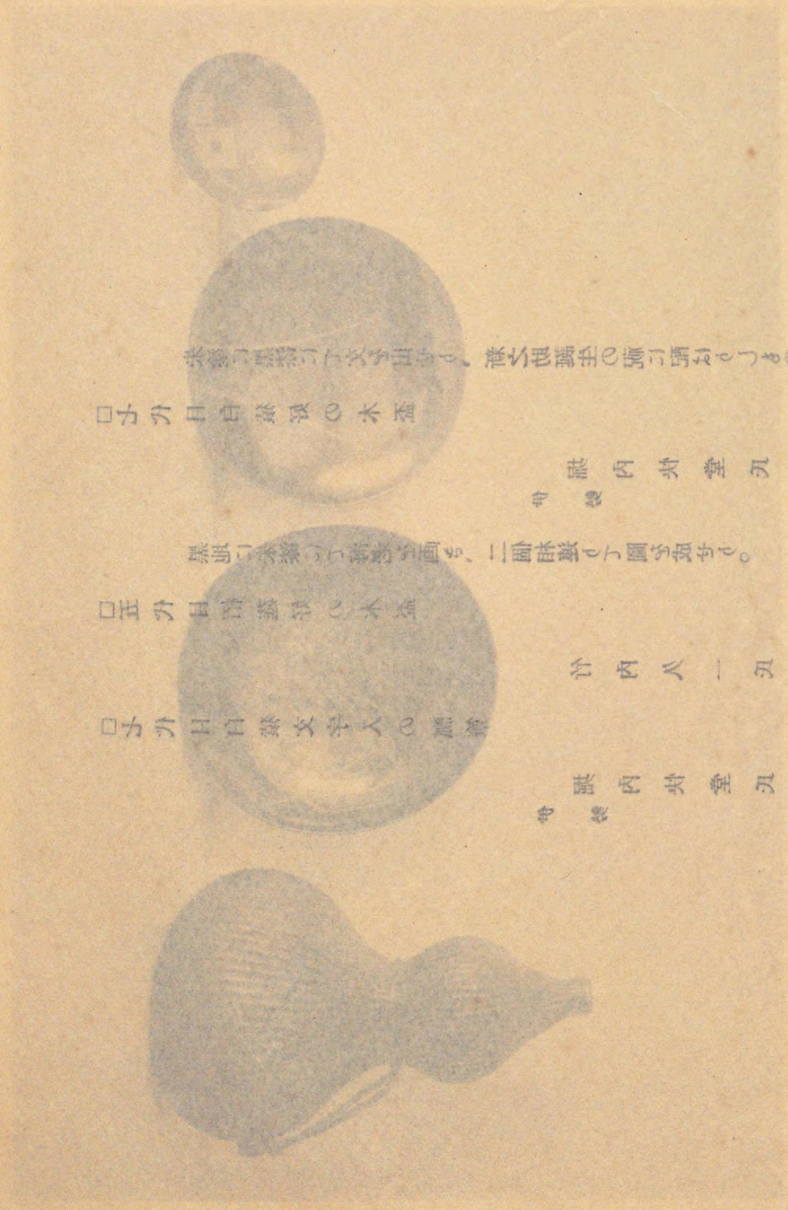
盆は朱塗にして、火入は陶製なり。煙管も亦陶製にて文様は蓋色なり。

川尻清潭氏所藏

□七代目圍十郎、樂屋常用の煙草盆

總て桑材にて作り、鼎形の火入は銅にて造られたり。





朱線に黒線にて文を出せて、漢字は馬主の號に頭なるべきも。

口ナ外日白鉄袋の木盃

駄内狩堂丸洞藏

甲袋

黒虫に朱線にて新字を画き、二面眯敷して圖を起せて。

口正外日酒藏袋の木盃

竹内八一丸洞藏

口ナ外日白鉄文字入の瀧管

駄内狩堂丸洞藏

甲袋

伊勢　堀内快堂氏所藏

□七代目白猿文字入の瓢箪

竹内久一氏所藏

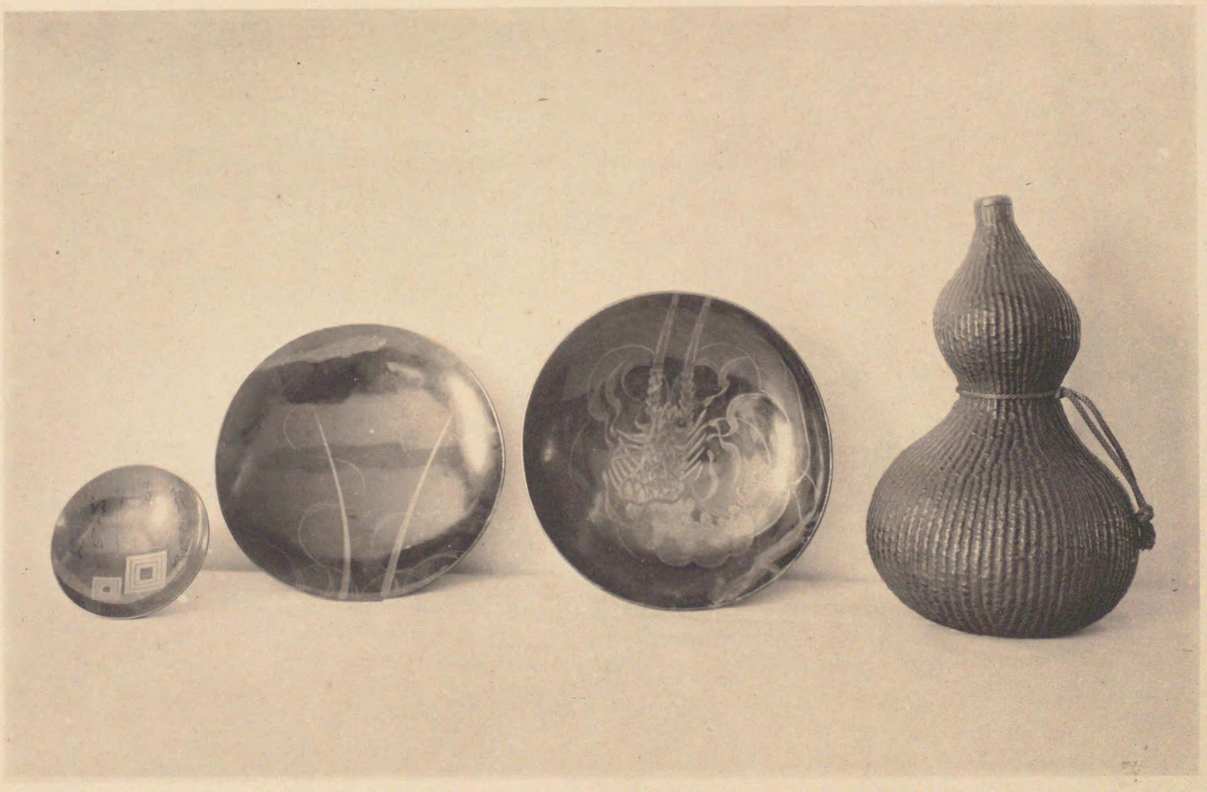
□五代目栢莚好の木盃

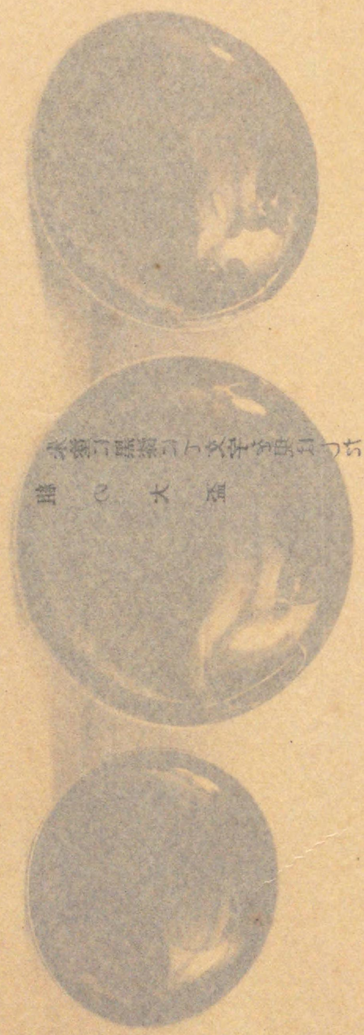
黒地に朱漆にて海老を画き、二個相連りて圖を成せり。

伊勢　堀内快堂氏所藏

□七代目白猿好の木盃

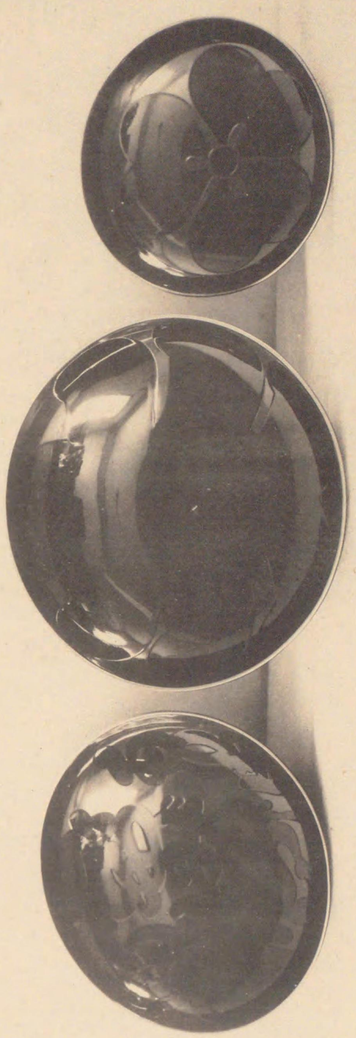
朱塗に黒漆にて文を出せり、新之助誕生の祝に配はりしもの。





米粒に黒粒にて文字を見たりけり。若干の先に用ひつゝもなし。

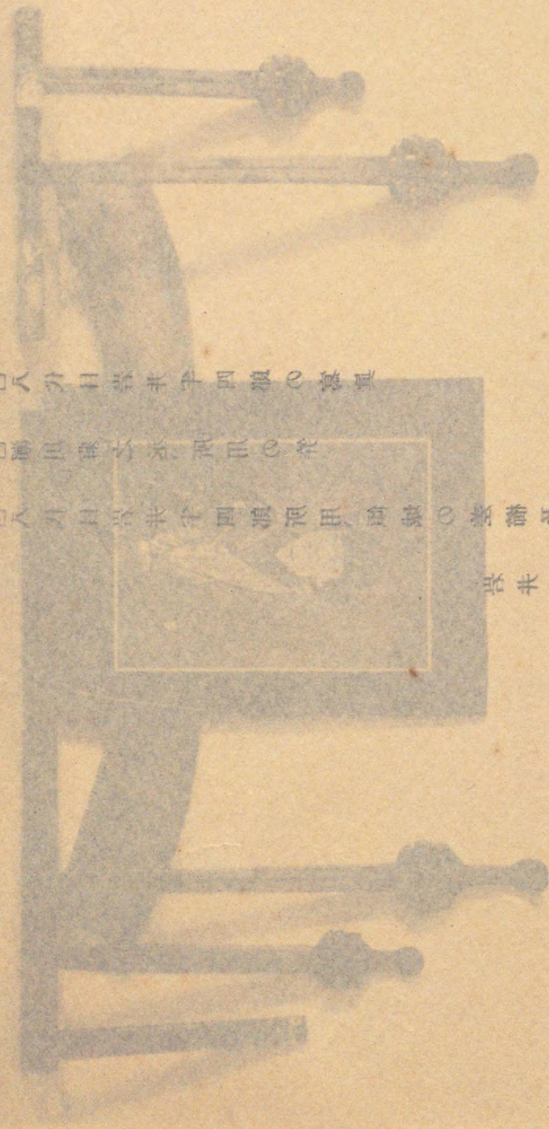
宇田　樹　顯　丸　泥　藏



守田勘彌氏所藏

口三組の大盃

朱塗に黒漆にて文字を現はしたり。嘗初の式に用ひしものなり。



岩井粂三郎氏所藏

□八代目岩井半四郎所用、傾城の差櫛及び笄

□瀬川菊之丞、所用の笄

□八代目岩井半四郎の寫眞

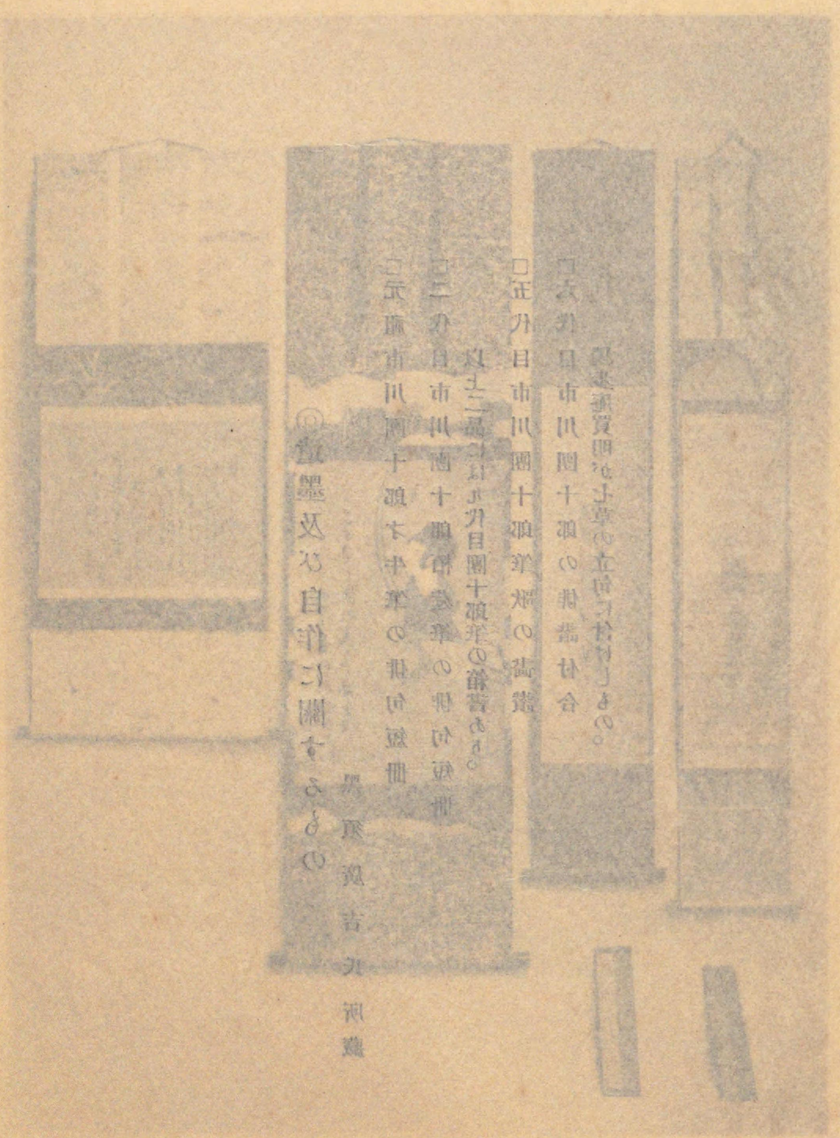
大阪

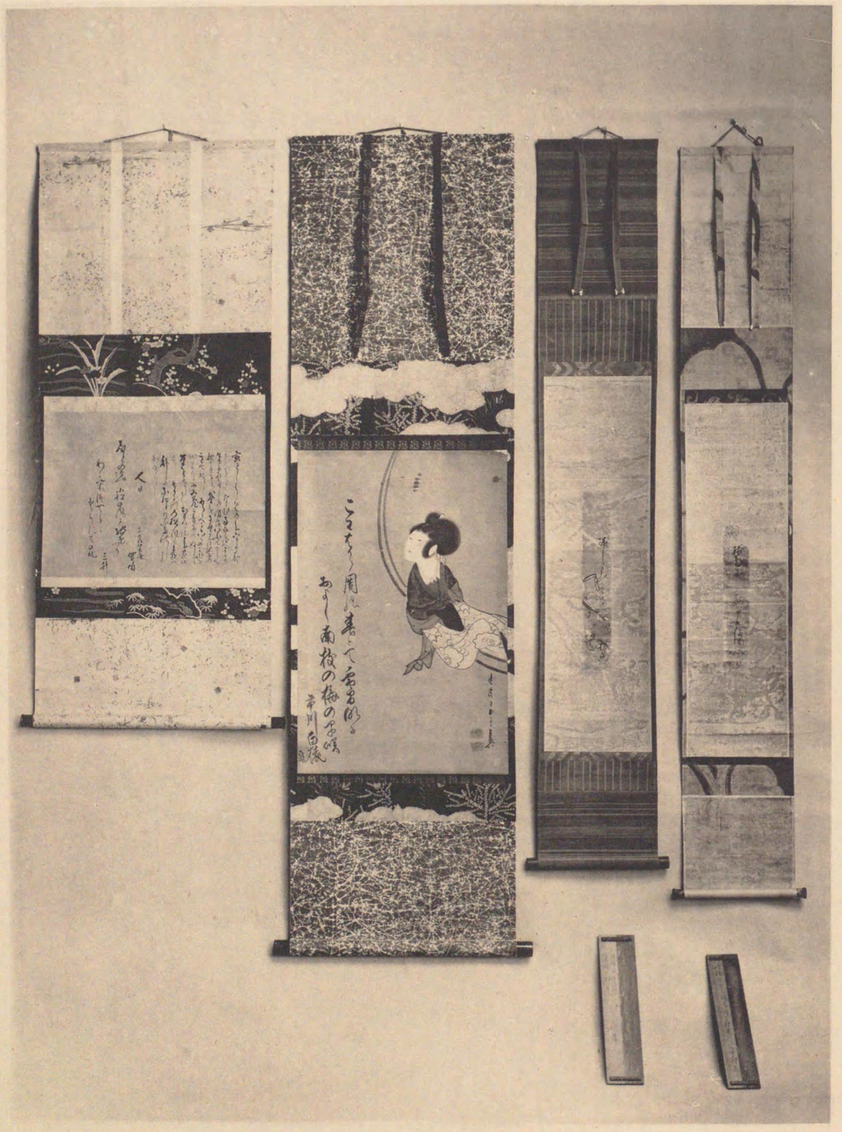
嵐吉三郎氏所藏

□三代目嵐吉三郎、座頭祝ひの帛紗
紺地に金糸の刺繍なり。

□同上　所有の革製煙草入

□二代目嵐吉三郎、舞臺所用の印籠

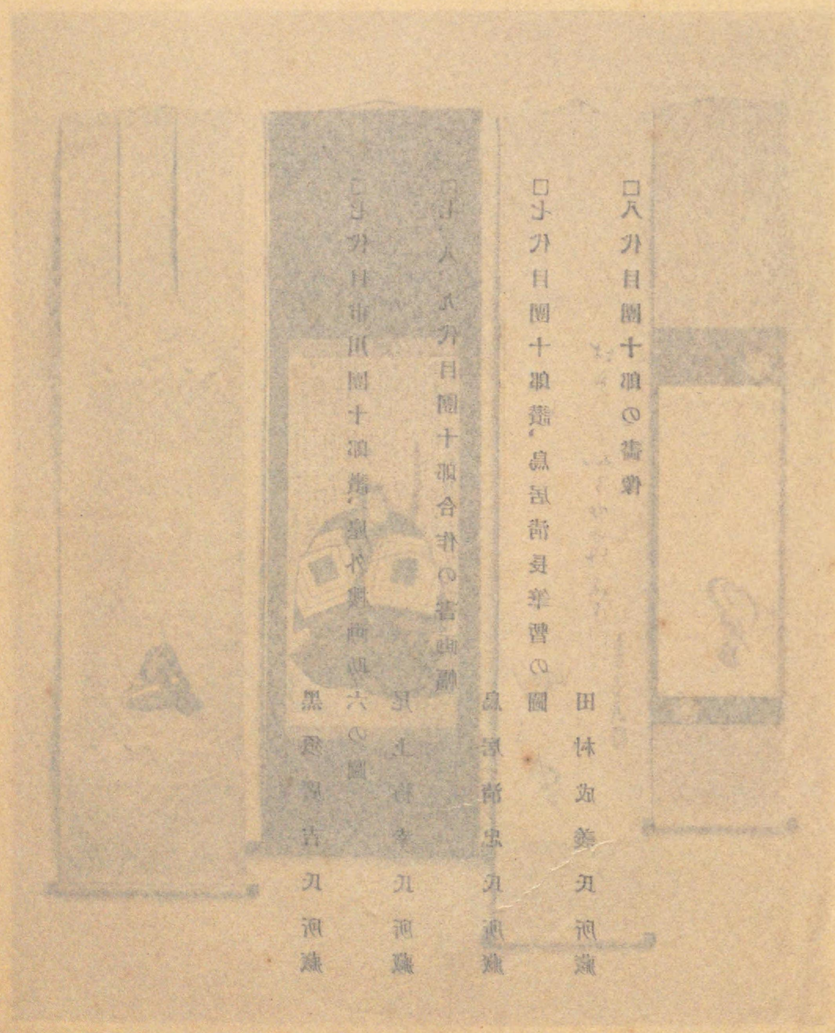


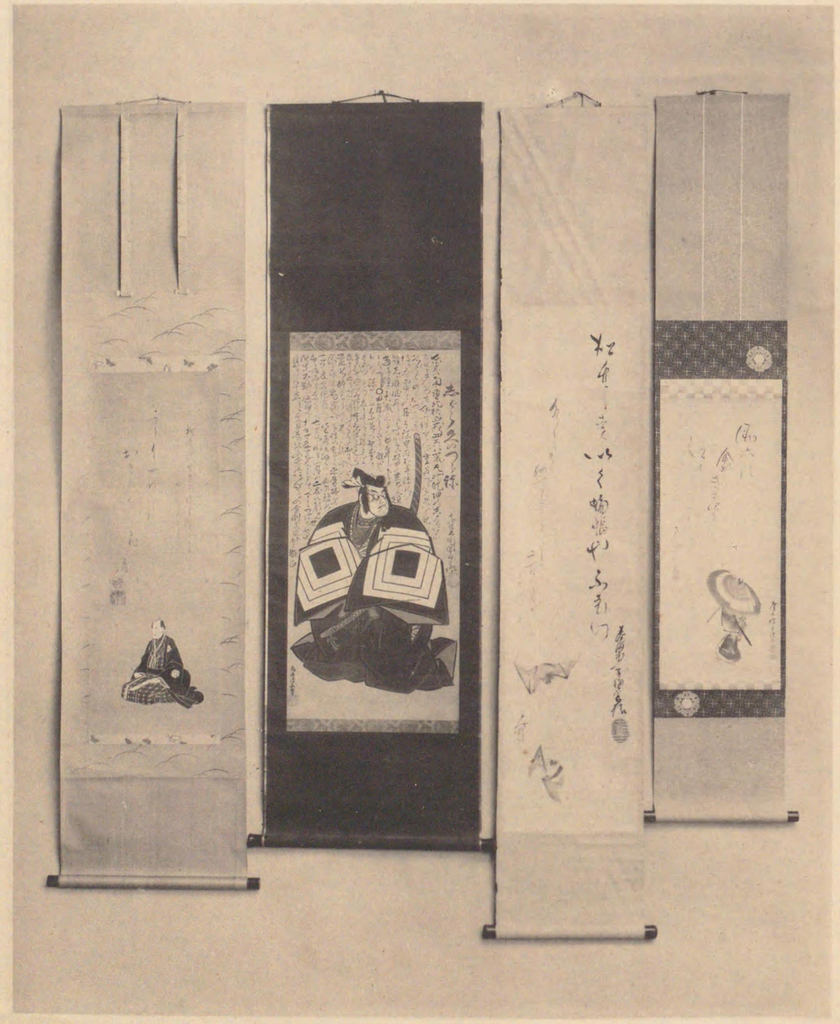


◎遺墨及び自作に關するもの

黒須廣吉氏所藏

□元祖市川團十郎才牛筆の俳句短冊
□二代目市川團十郎栢莚筆の俳句短冊
　以上二品には九代目團十郎筆の箱書あり。
□五代目市川團十郎筆歌の書讃
□六代目市川團十郎の俳諧付合
　獨歩庵買明が七草の立句に付けしもの。



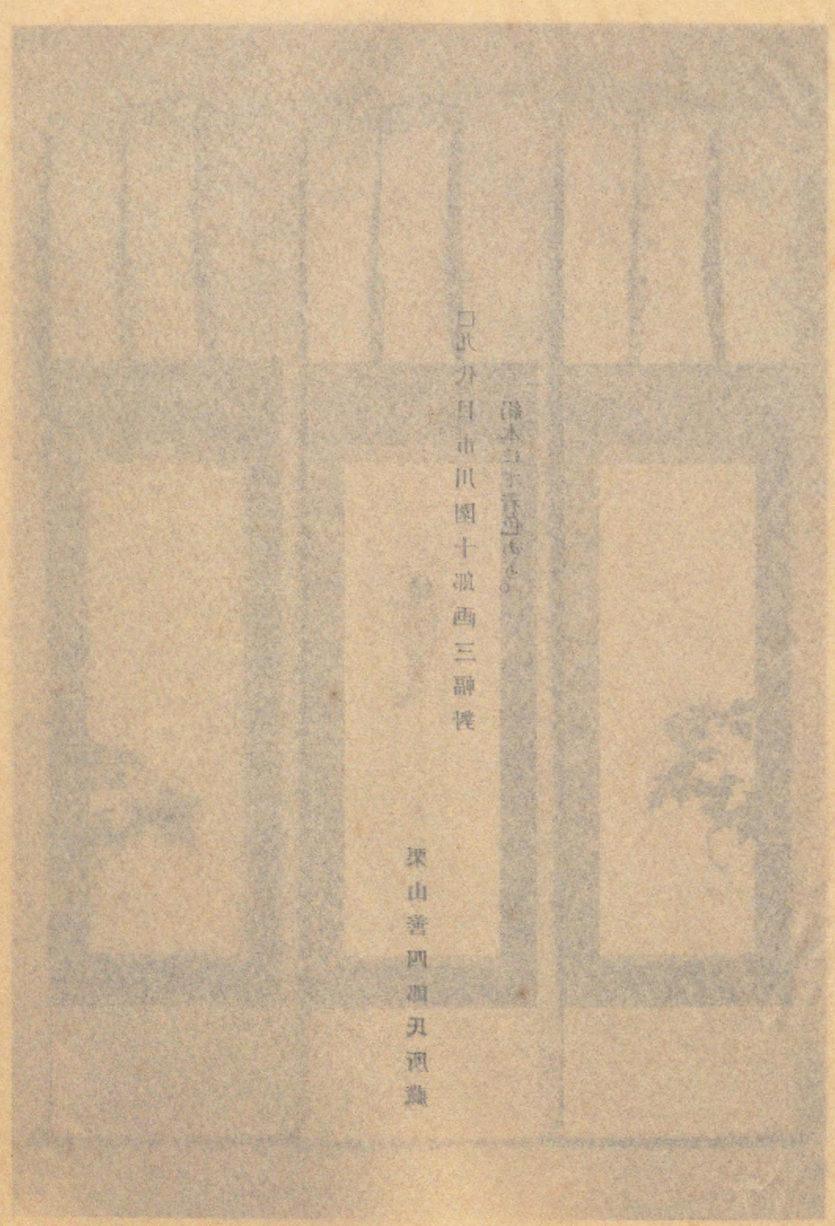


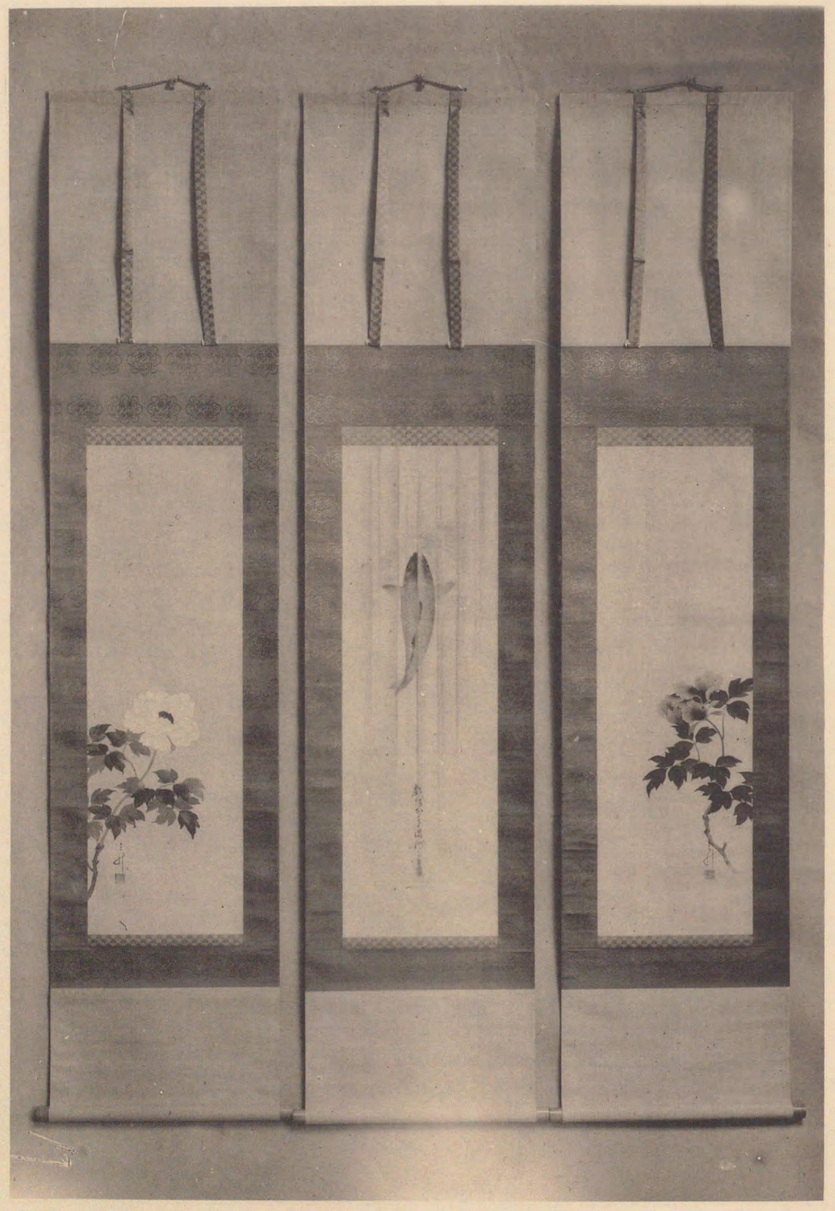
□七代目市川團十郎讃、塵外樓画助六の圖　黒須廣吉氏所藏

□七、八、九代目團十郎合作の書画幅　尾上梅幸氏所藏

□七代目團十郎讃、鳥居清長筆暫の圖　鳥居清忠氏所藏

□八代目團十郎の畵像　田村成義氏所藏

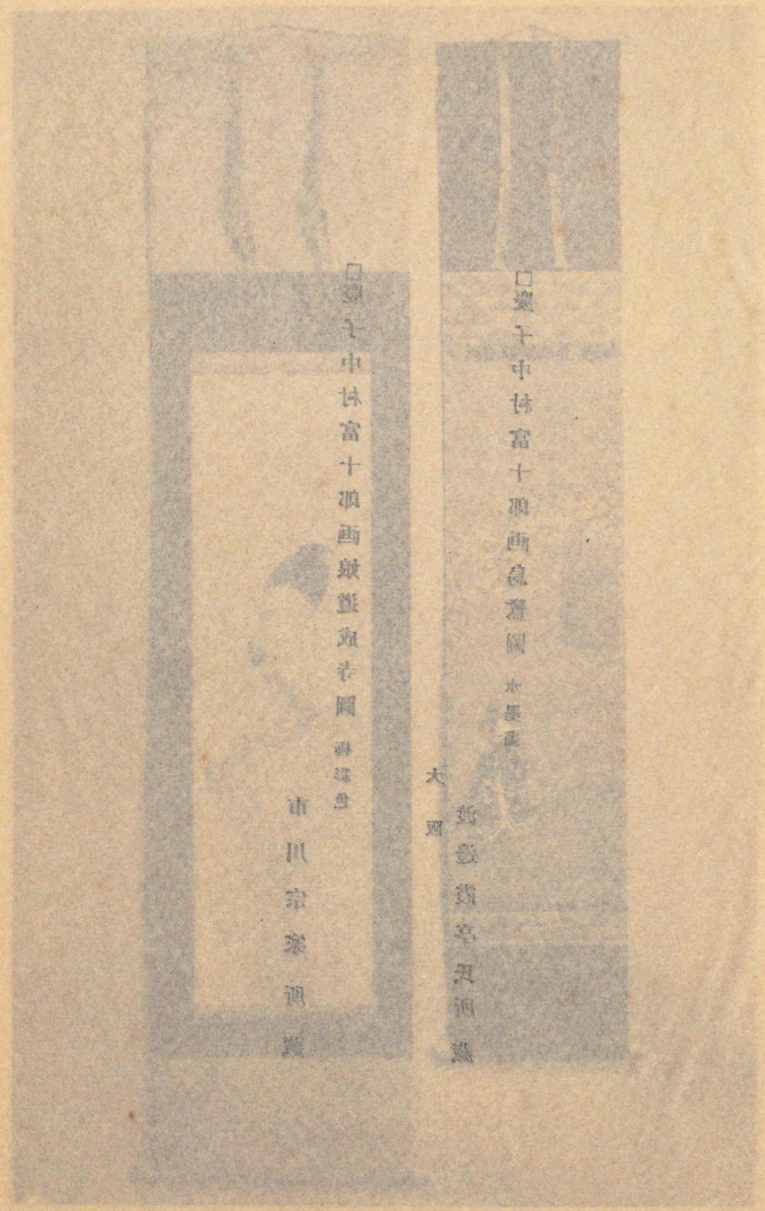




□九代目市川團十郎画三幅對

絹本にて着色あり。

栗山善四郎氏所藏



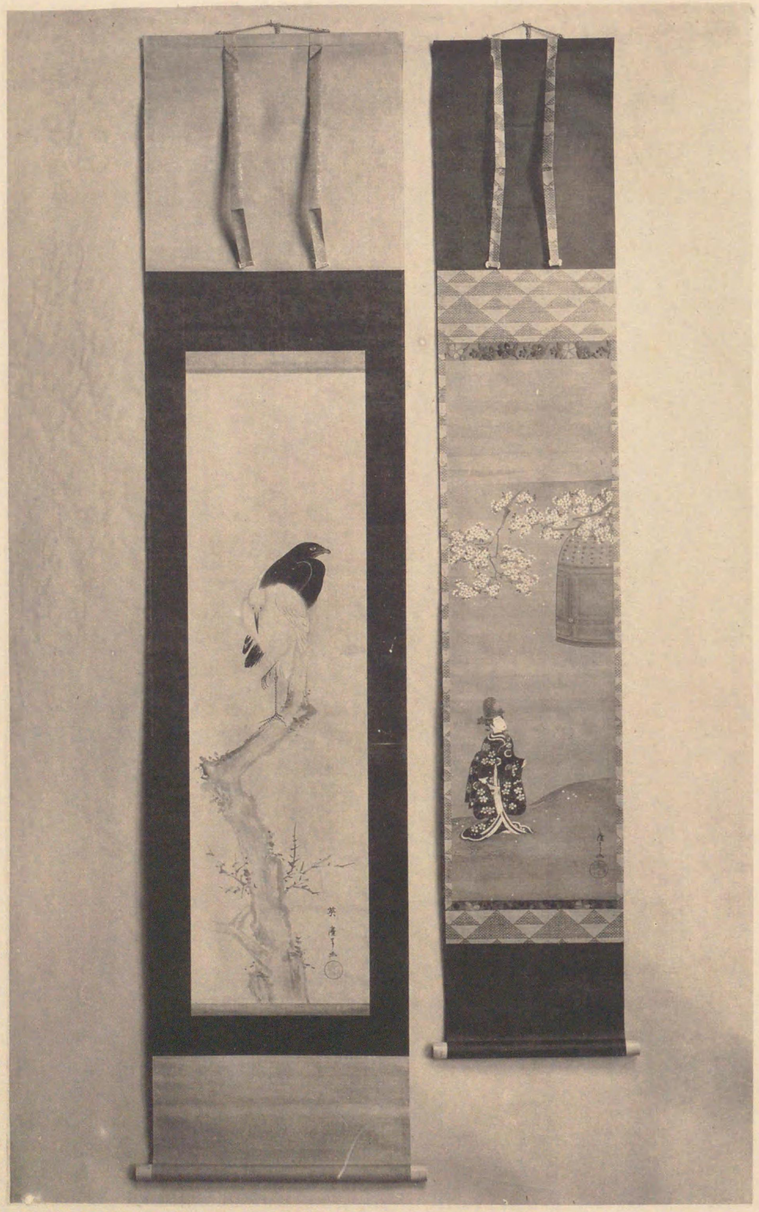
□[illegible]十中林富十[illegible]画[illegible]圖 水墨画

[illegible]

大[illegible]

□[illegible]十中林富十[illegible]画[illegible]圖 [illegible]

市川宗[illegible]

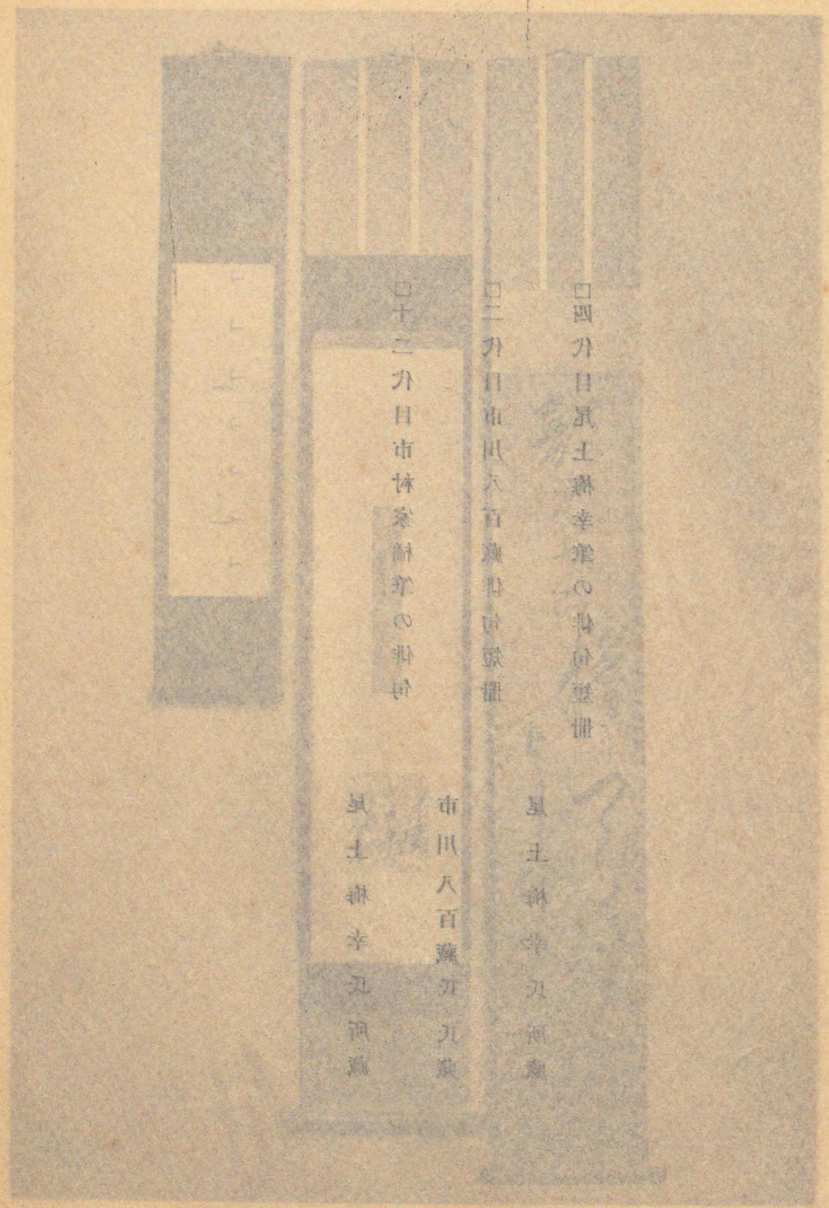


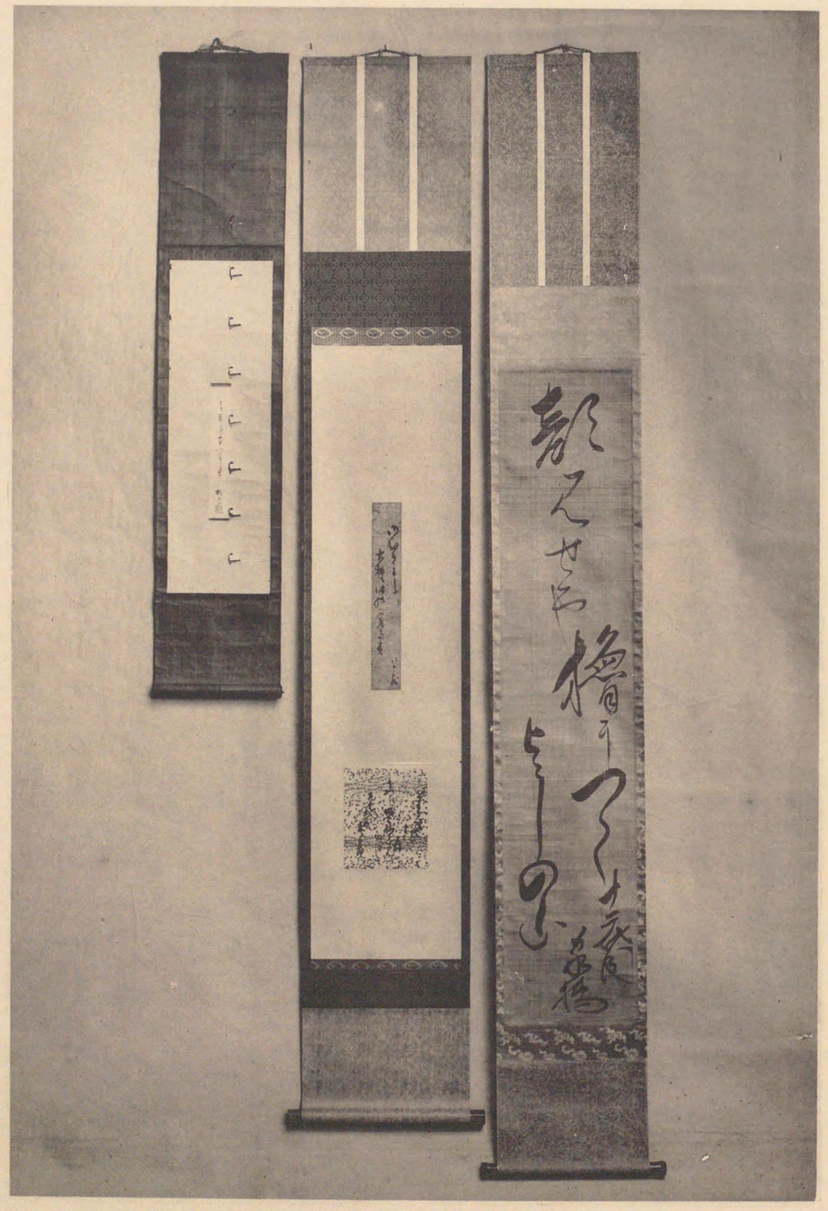
□慶子中村富十郎画娘道成寺圖　極彩色

市川宗家所藏

□慶子中村富十郎画鳥鷺圖　水墨畫

大阪　渡邊霞亭氏所藏

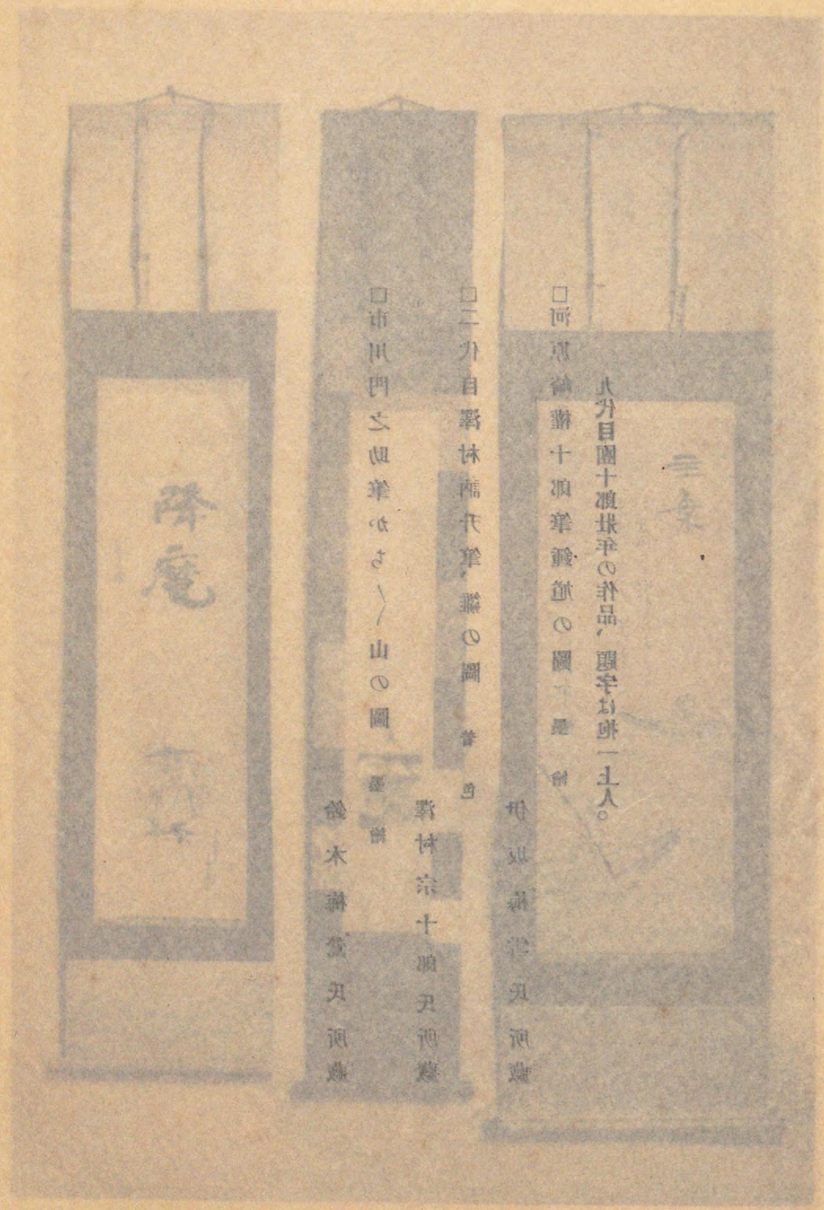


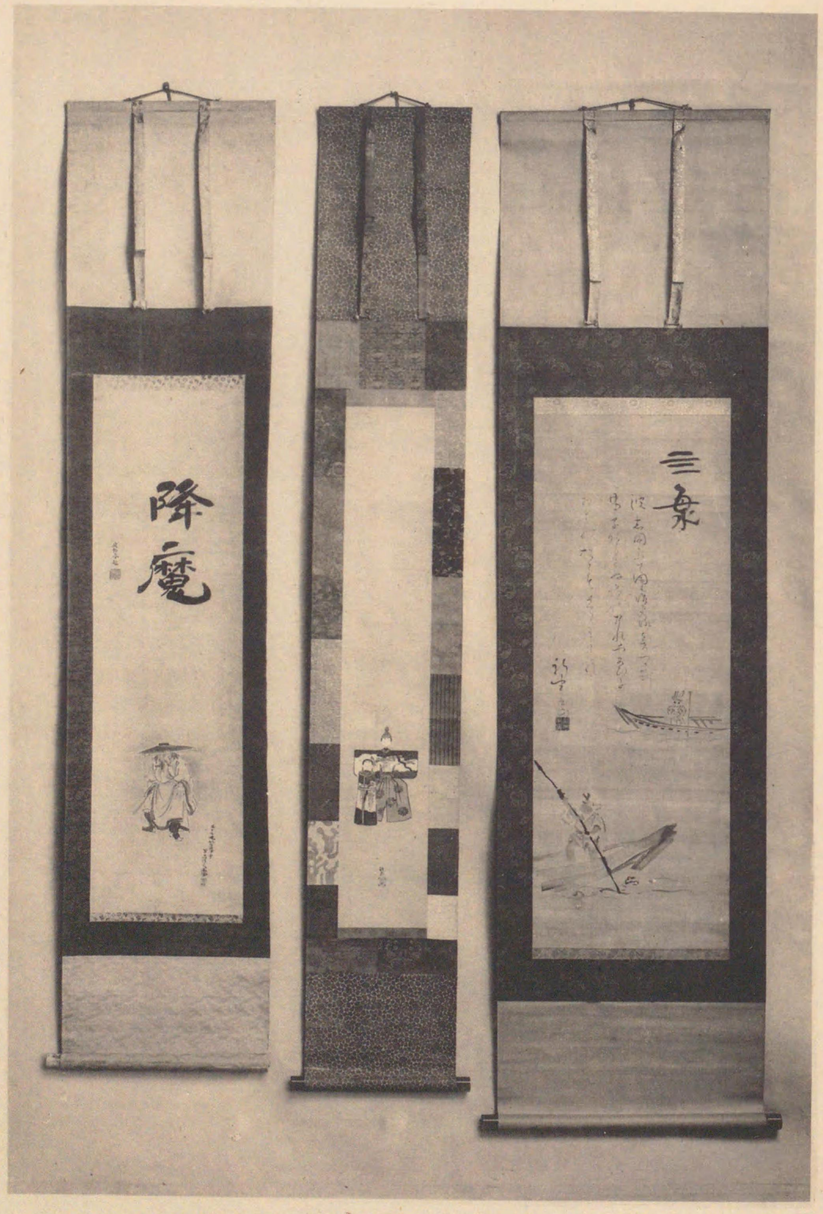


□十二代目市村家橘筆の俳句　尾上梅幸氏所藏

□二代目市川八百藏俳句短冊　市川八百藏氏氏藏

□四代目尾上梅幸筆の俳句短冊　尾上梅幸氏所藏



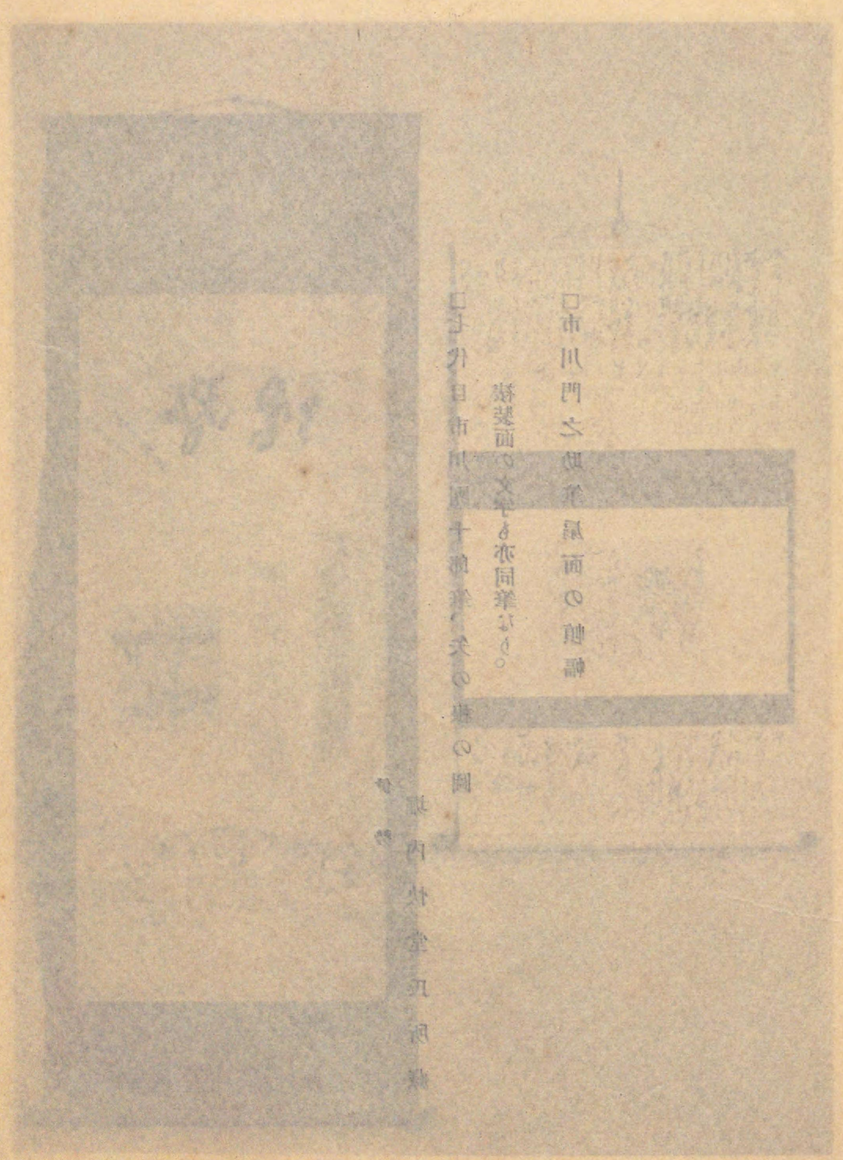


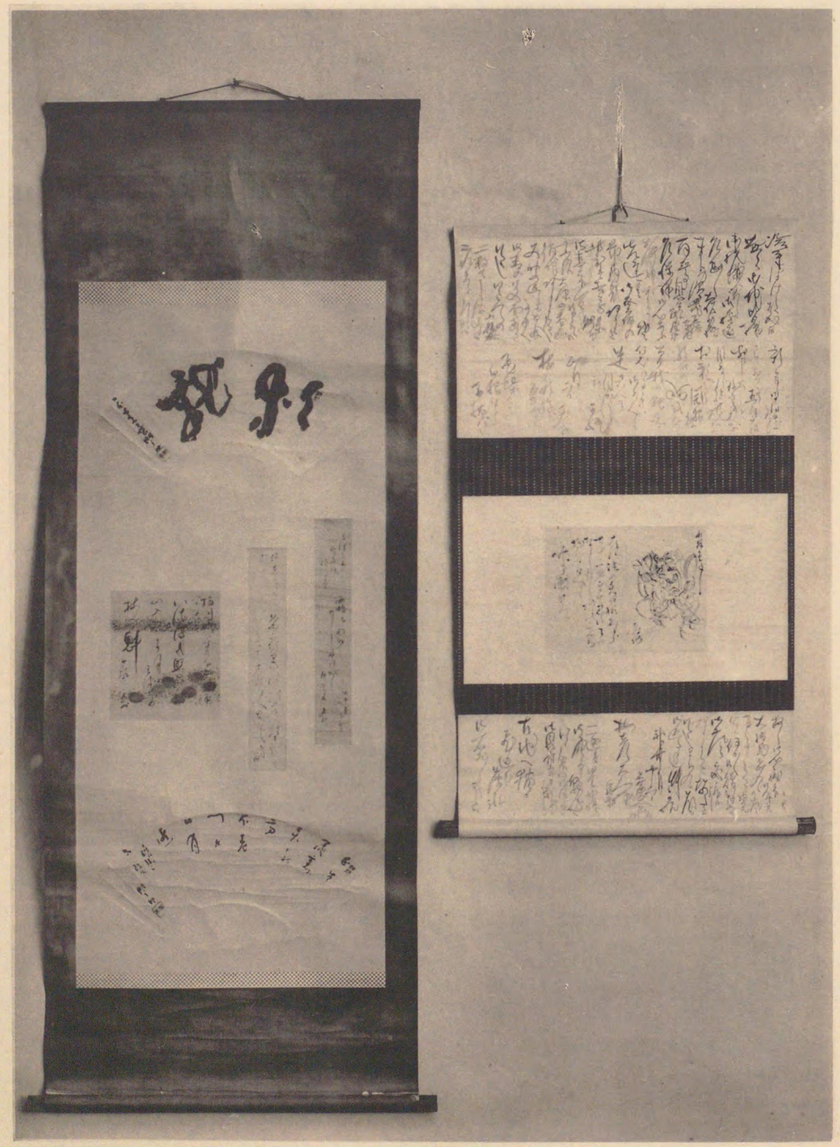
□市川門之助筆かち〳〵山の圖　墨繪　鈴木梅鶯氏所藏

□二代目澤村訥升筆、雛の圖　墨繪　澤村宗十郎氏所藏

□河原崎權十郎筆鍾馗の圖　着色　伊坂梅雪氏所藏

九代目團十郎壯年の作品、題字は抱一上人。



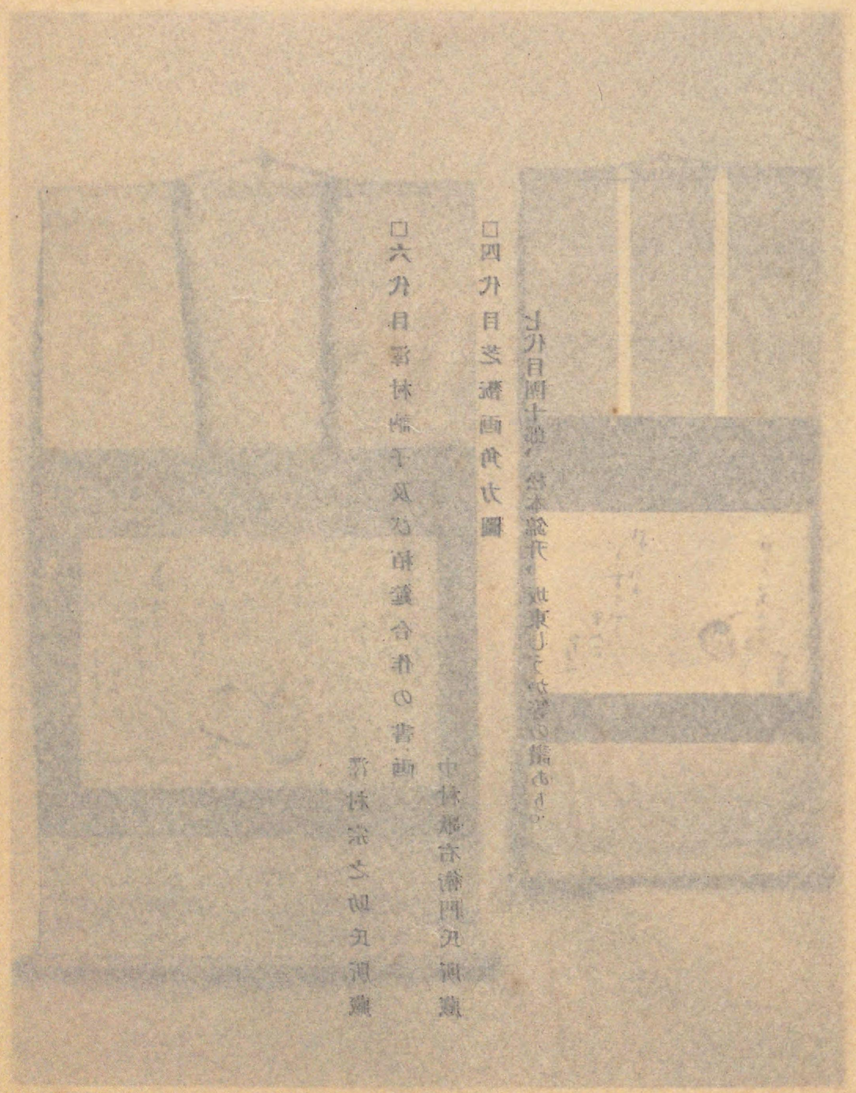


伊勢　堀内快堂氏所藏

□七代目市川團十郎筆、矢の根の圖

袴裝面の文字も亦同筆なり。

□市川門之助筆扇面の幀幅

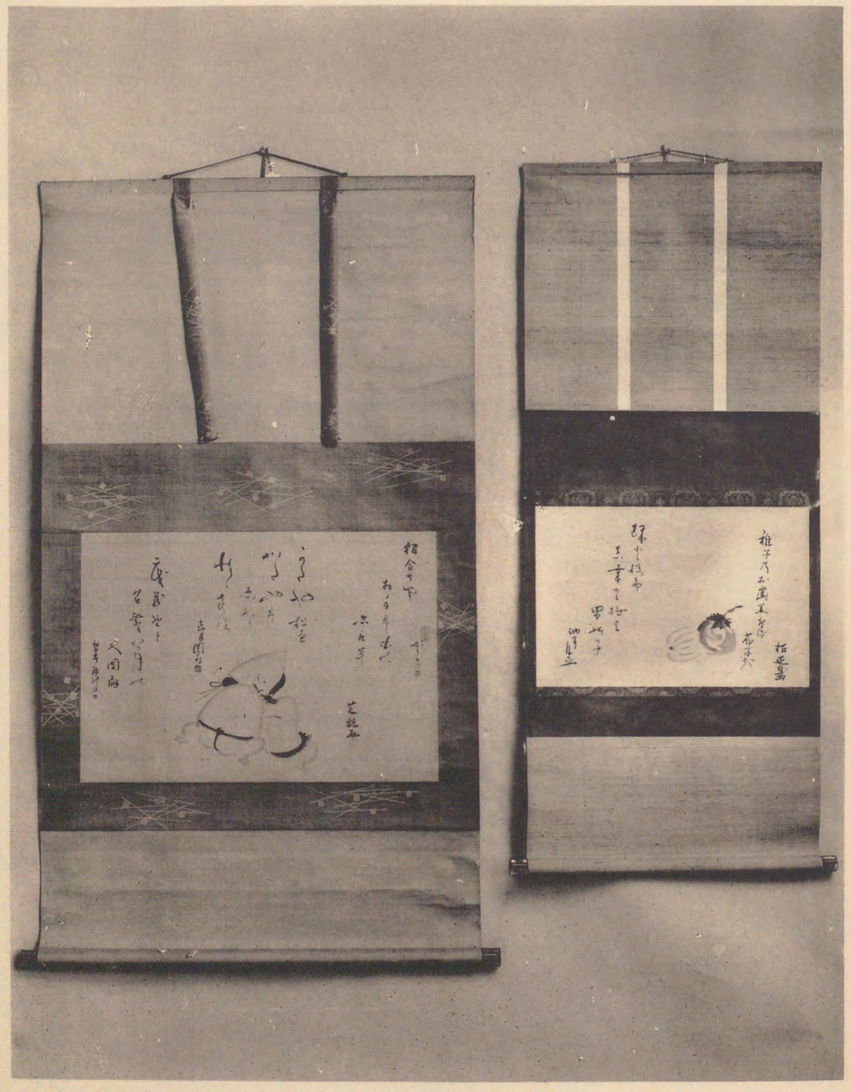


□四分目芝蘭画角力圖

□六分目雪林幽千夏乃南蠻合作の書画

中林郡右衛門兄弟藏

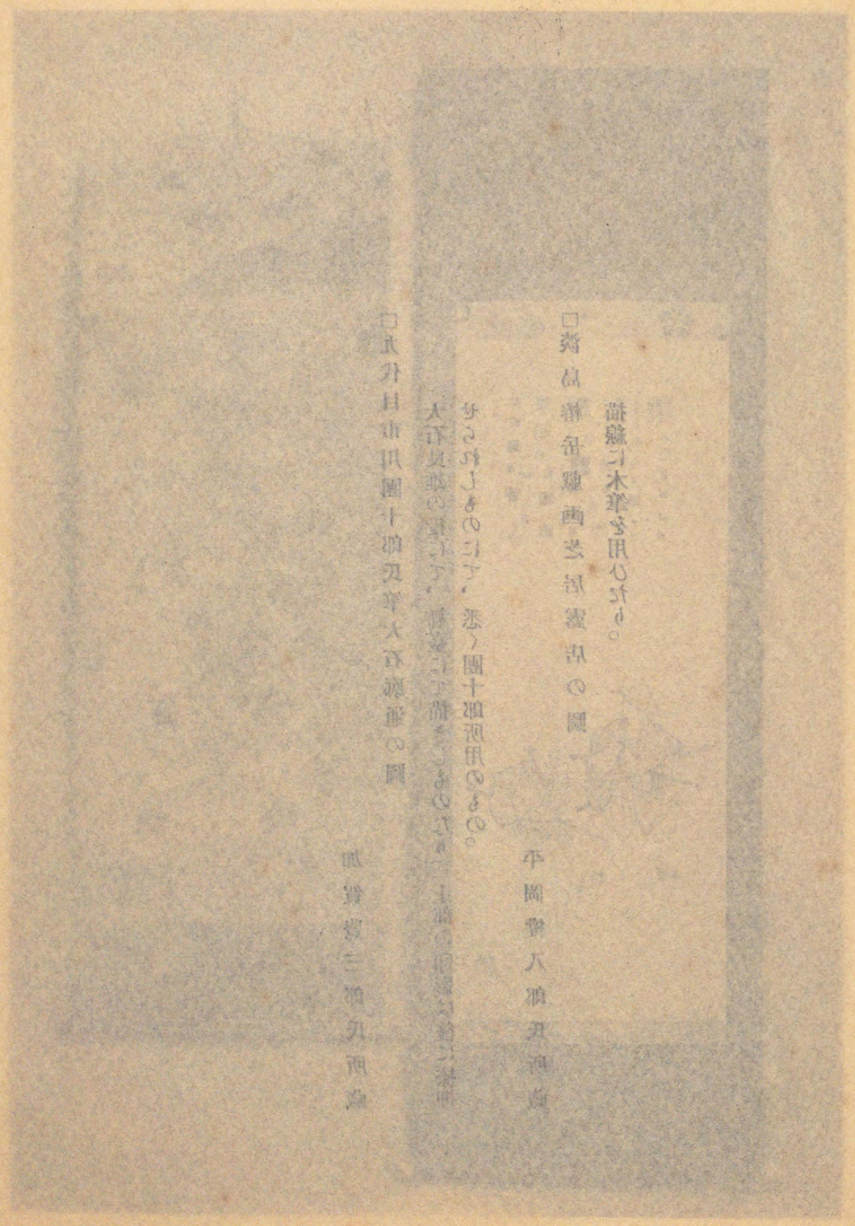
雪林宗之助兄弟藏

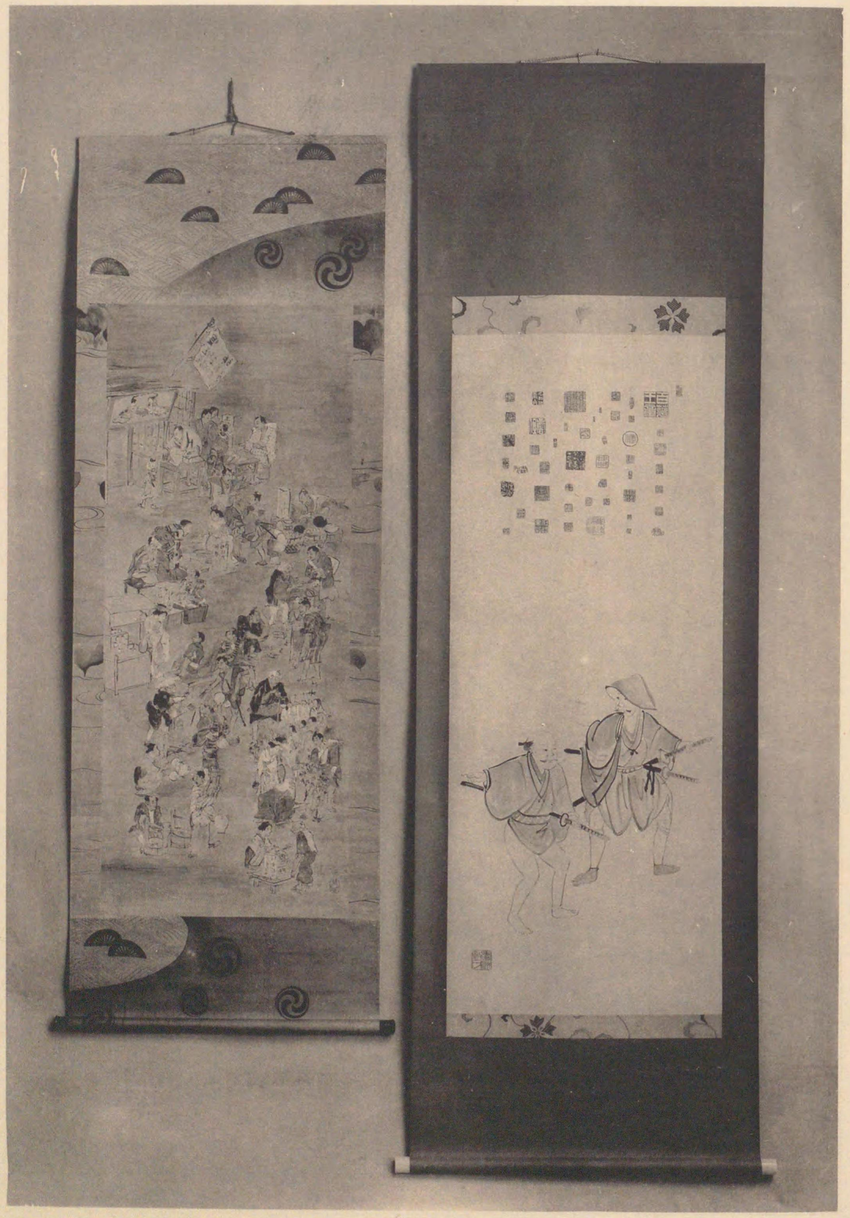


□六代目澤村訥子及び栢筵合作の書畫　澤村宗之助氏所藏

□四代目芝翫画角力圖　中村歌右衛門氏所藏

七代目團十郎、松本錦升、坂東しうか等の讃あり。





□九代目市川團十郎氏筆大石廓通の圖

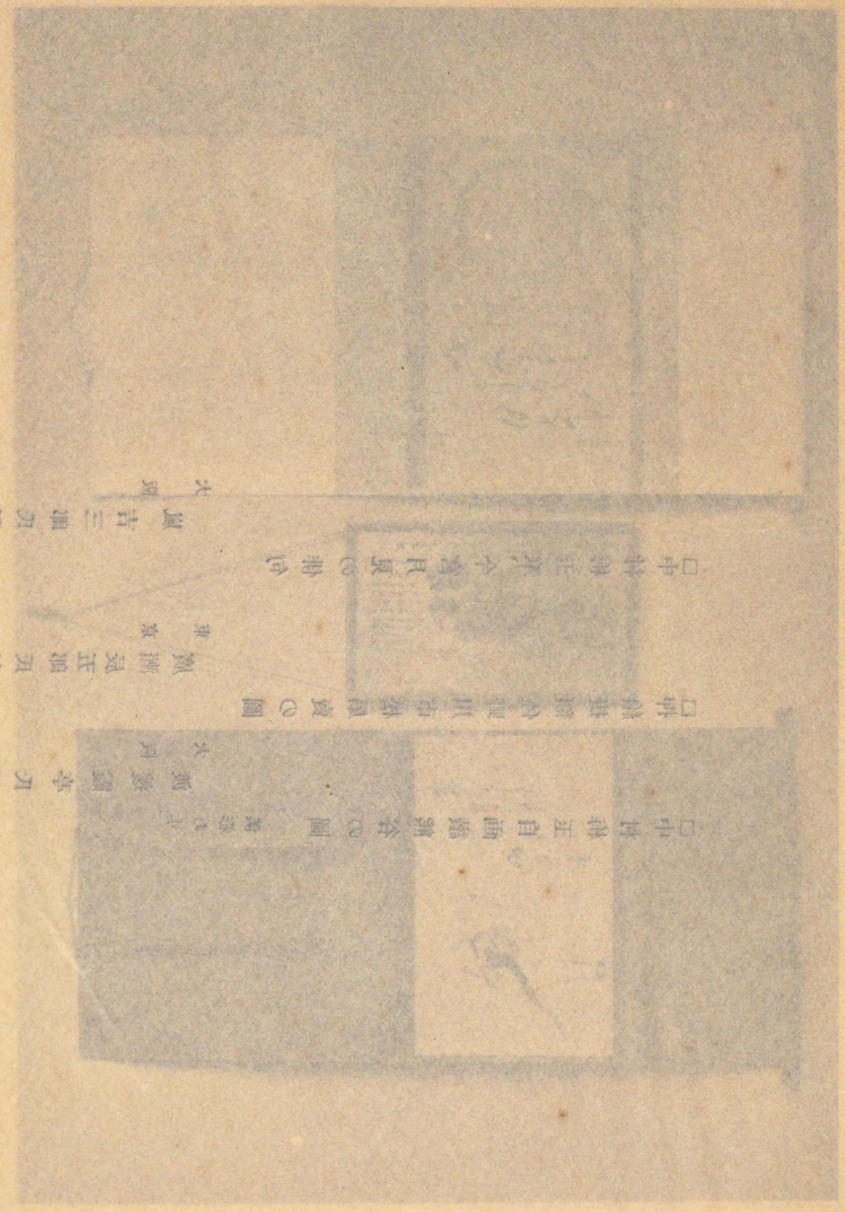
大石良雄の役にて、舞臺にて描きしものなり。上部の印影は後に捺押せられしものにて、悉く團十郎所用のもの。

加賀豊三郎氏所藏

□淡島椿岳戯画芝居露店の圖

描線に木筆を用ひたり。

平岡權八郎氏所藏

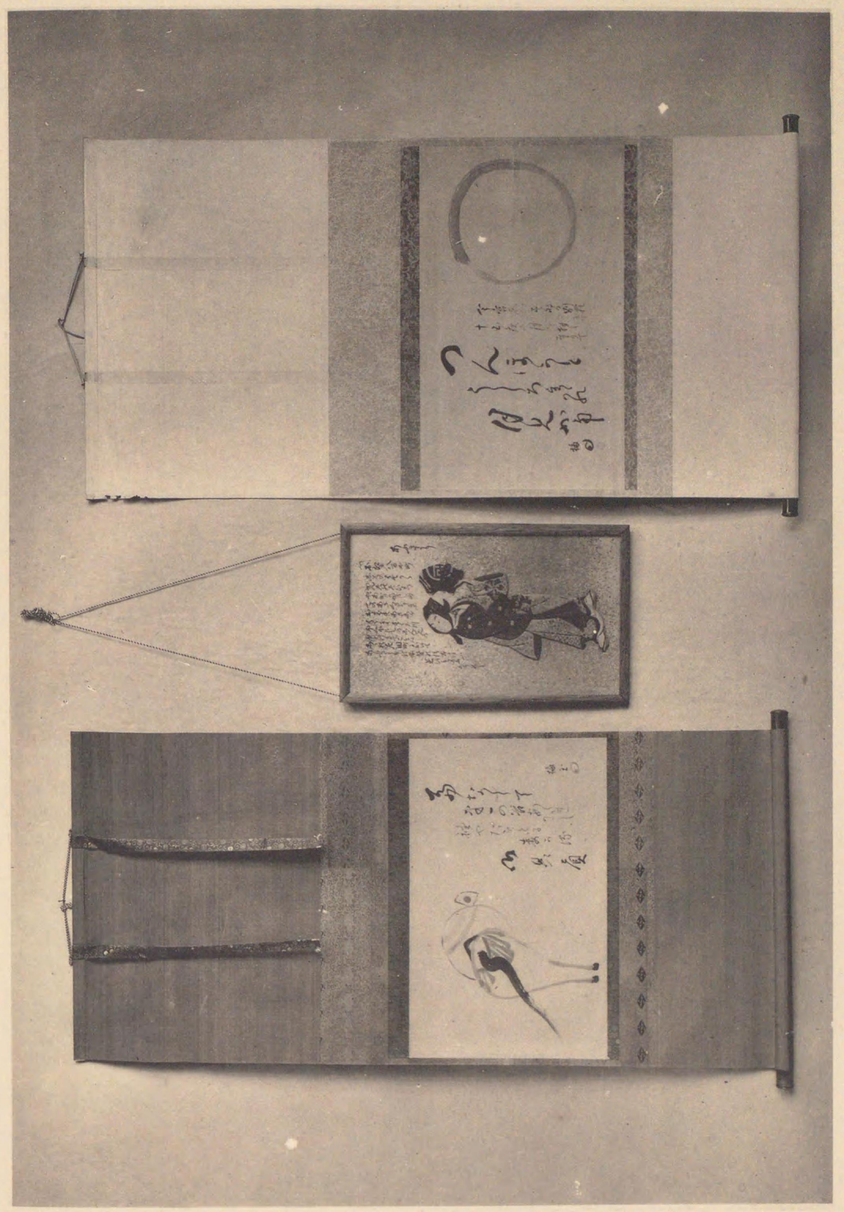


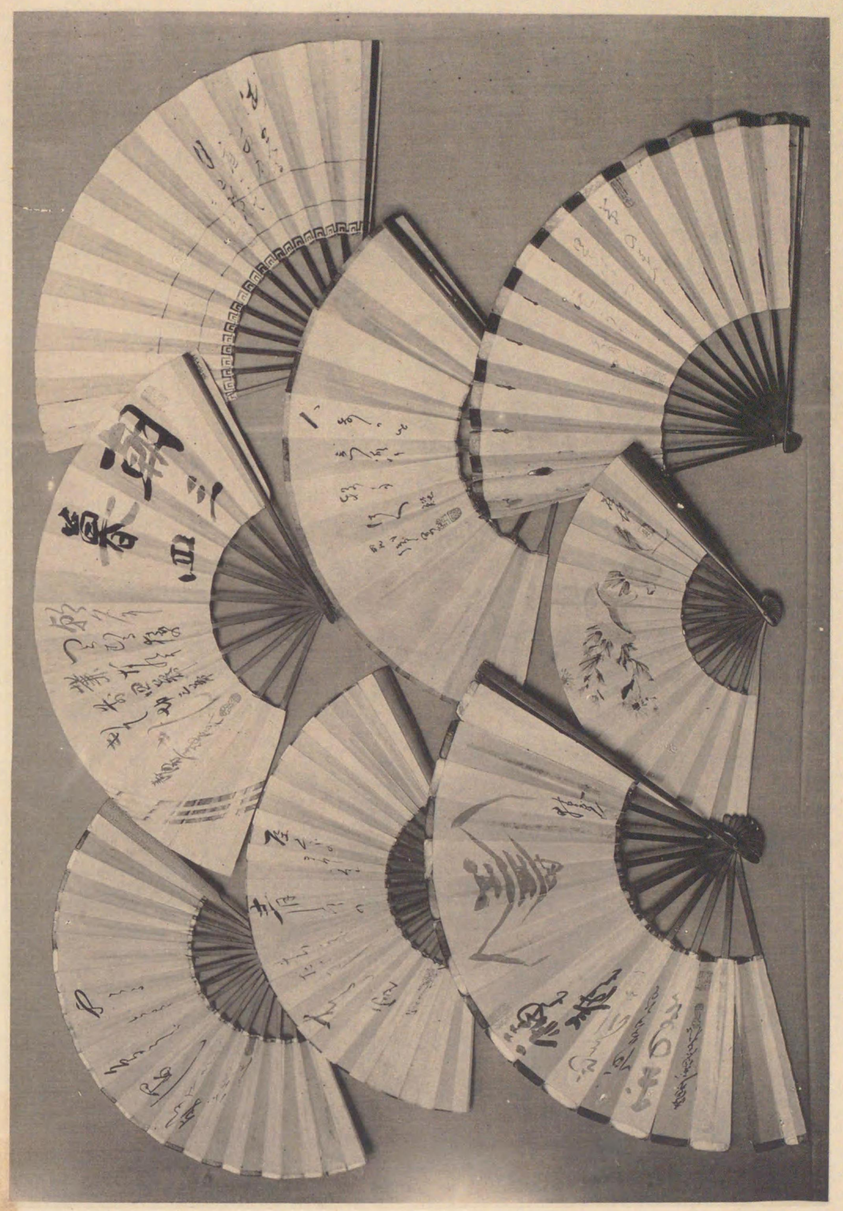
口中村梅玉筆、今宮月見の俳句　大阪　嵐吉三郎氏所藏

口中村梅玉筆　東京　廣瀬辰五郎氏所藏

口押繪掛額　佐野川市松扇の圖　大阪　渡邊霞亭氏所藏

口中村梅玉自画讃　熊谷の圖　淡彩あり　大阪　廣瀬辰五郎氏所藏

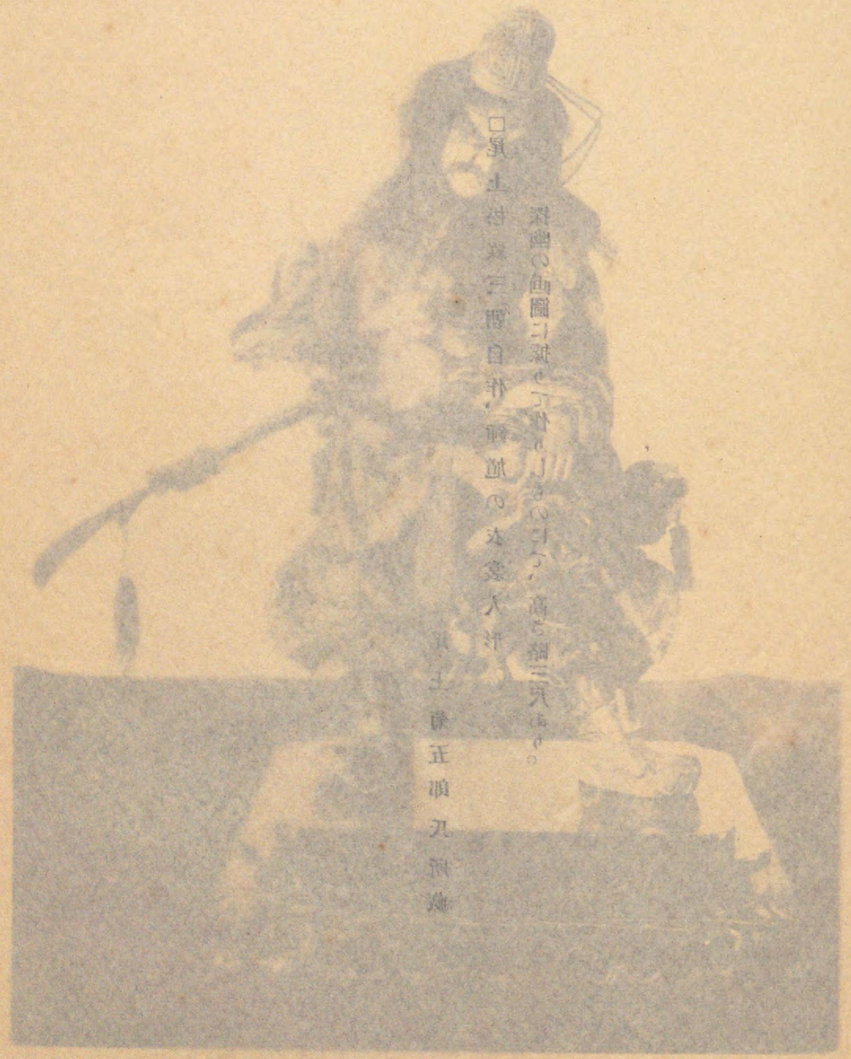




大阪　渡上水邊露霞亭氏所藏

同　東京　金子伴雨氏所藏

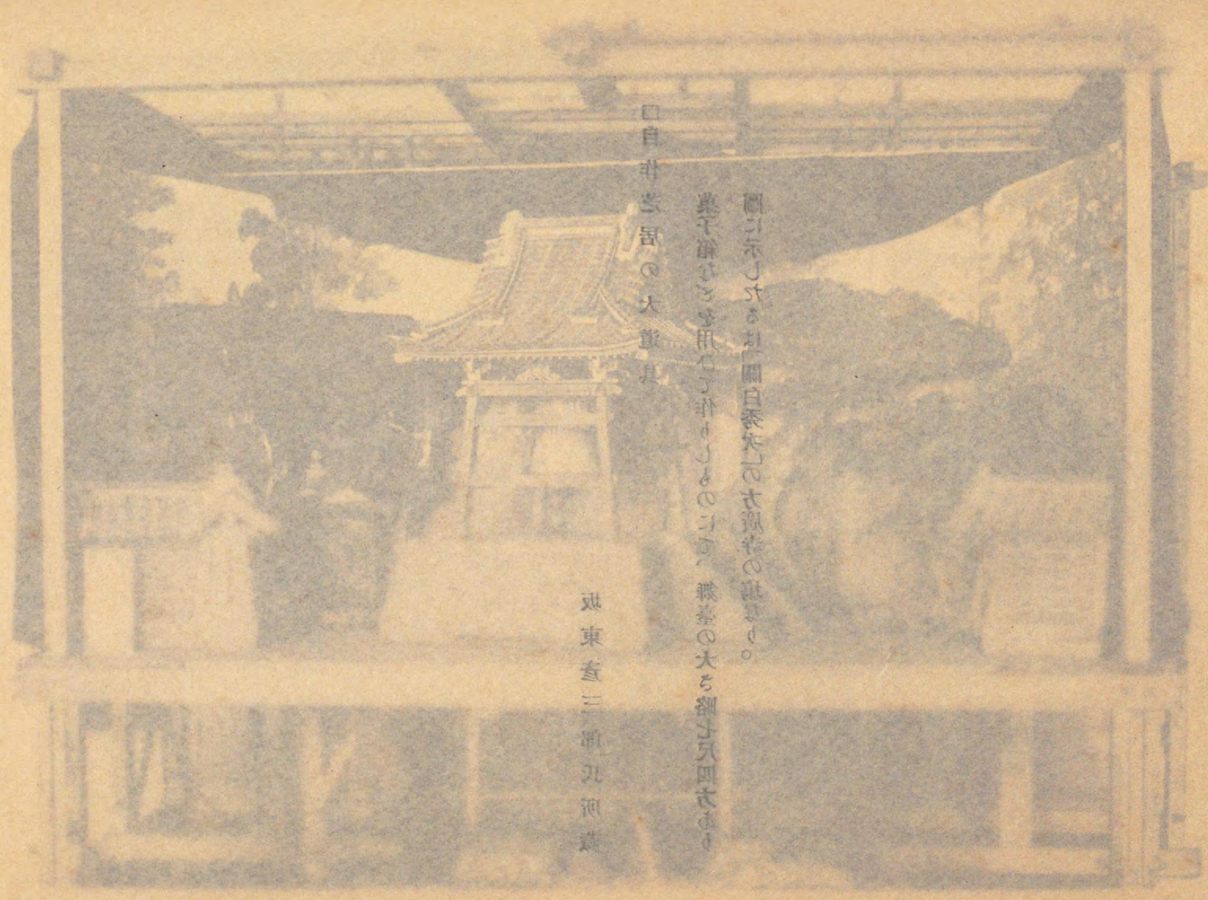
□初代芝翫筆俳句（露）
□三代目梅幸筆俳句（霞）
□四代目璃寛筆俳句（露）
□三代目梅幸筆俳句（霞）
□市川新藏画狂歌（露）
□七代目團十郎筆俳句（露）
□八代目團十郎筆俳句（露）
□七代目團十郎書画（霞）
□河原崎權之助筆俳句（露）



□尾上松緑三朝自作、鍾馗の衣裳人形

探幽の画圖に據りて作りしものにて、高さ略三尺あり。

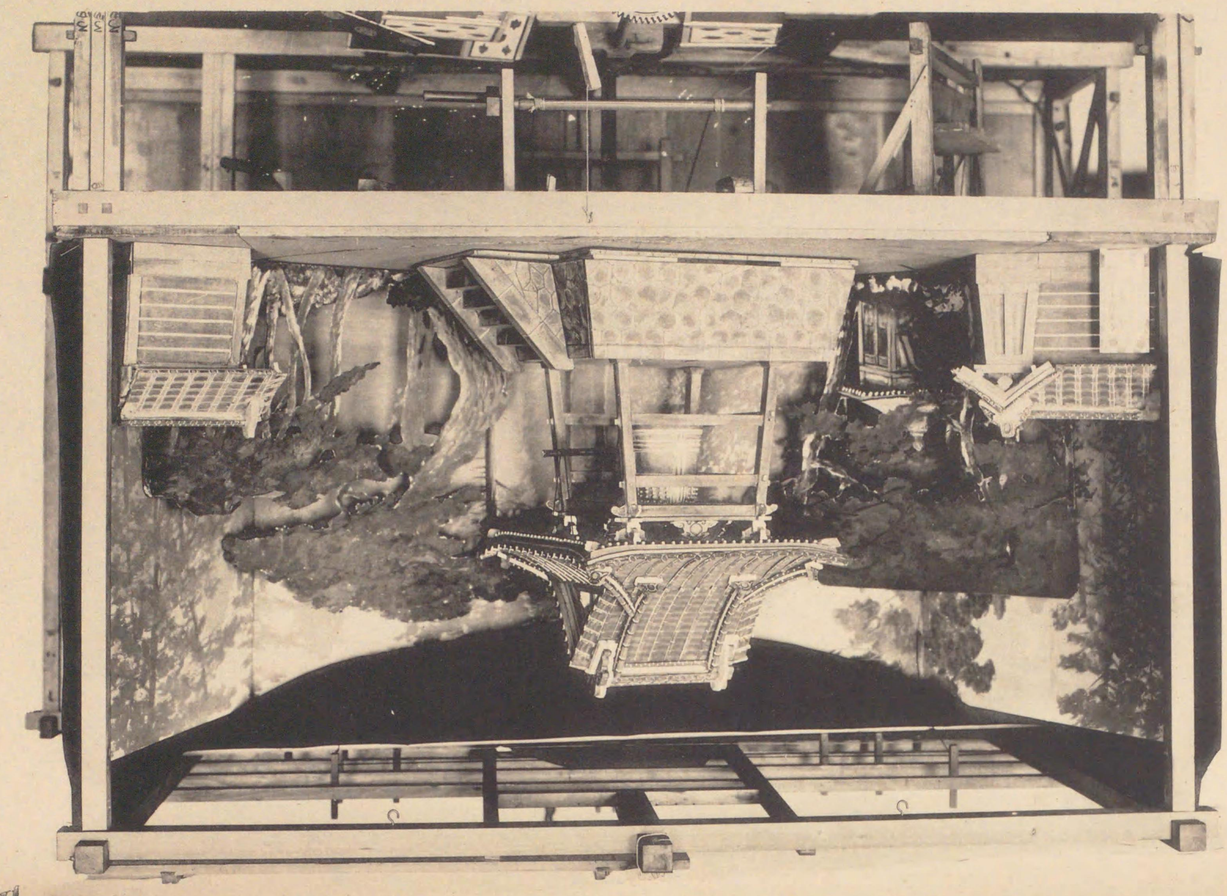
尾上菊五郎氏所藏



圖に示したるは「關白秀次」の方廣寺の遺跡也。
墓下雜草を多用して作りしものにて、鐵臺の大ち部に八四方あり。

□自作之居の大道具

東京 [illegible]



坂東彦三郎氏所藏

□自作芝居の大道具

菓子箱などを用ひて作りしものにて、舞臺の大さ略七尺四方あり圖に示したるは「關白秀次」の方廣寺の塲なり。

□同上寛隠書留本

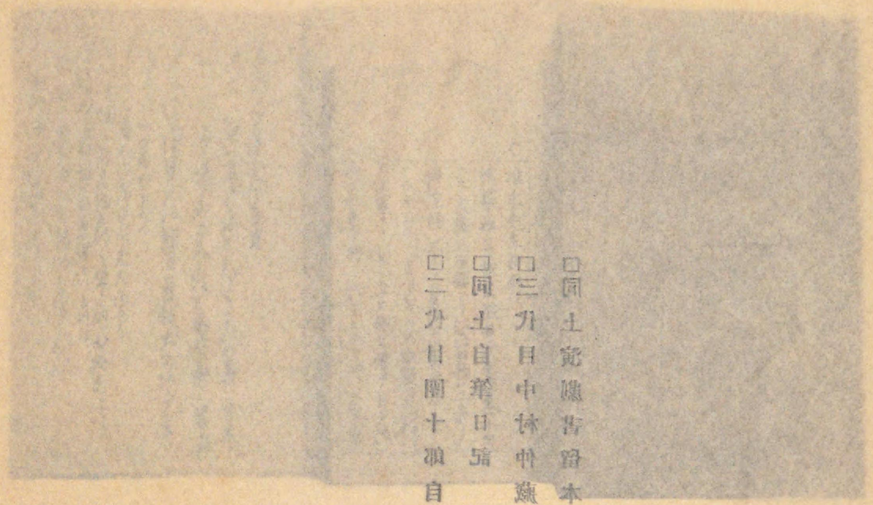
□三九目中林仲蘇自筆一年前刻世『己』蔵本

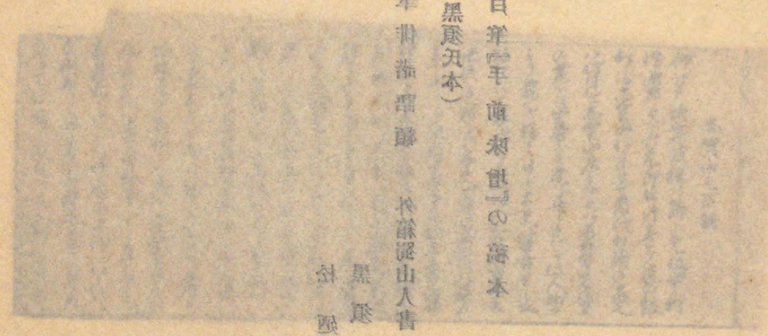
□同上自筆日記（黒瓦丸本）

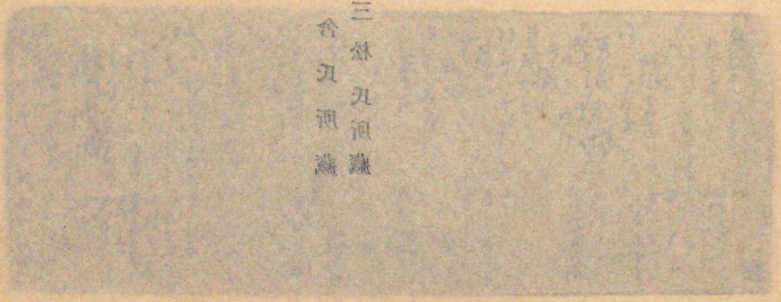
□二九目閏十頃自筆世話聞雜　本箱淵山人書

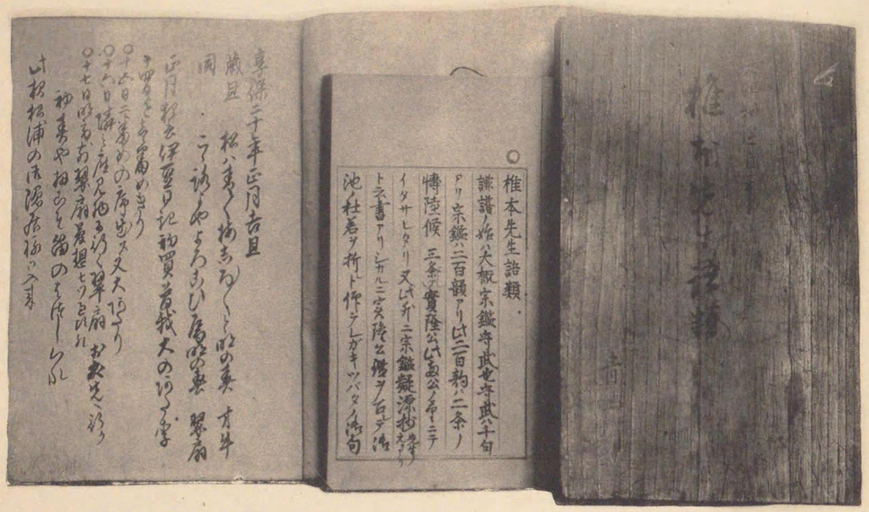
黒瓦三枚丸同蔵

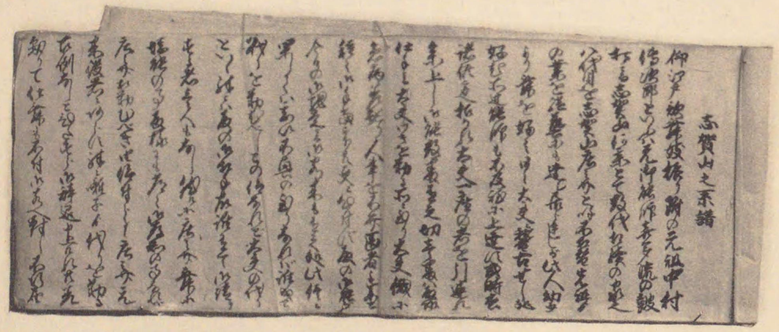
枚酉舎丸同蔵

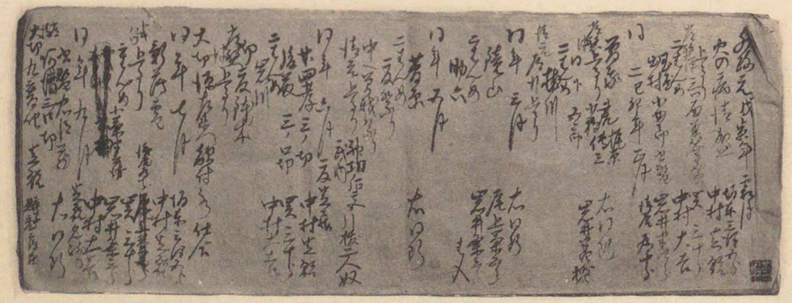




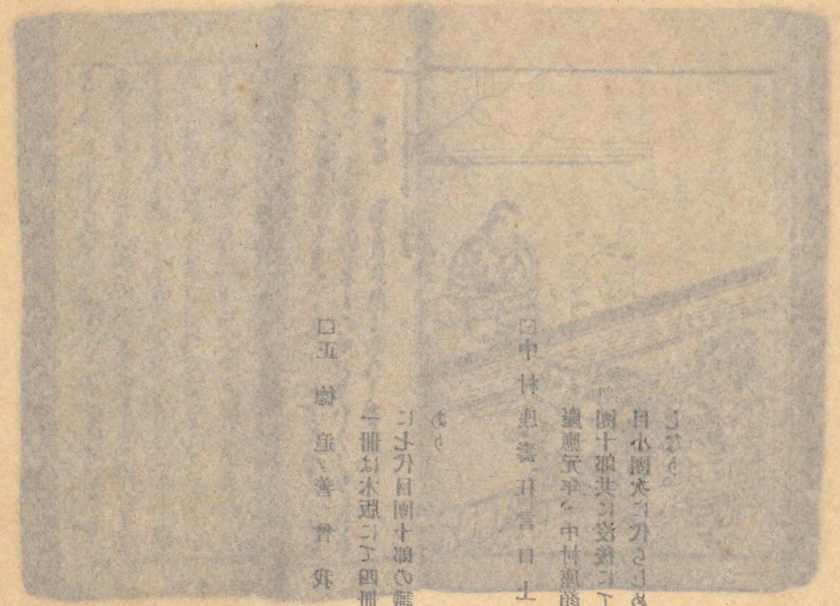








□二代目團十郎自筆俳諧語類　外箱蜀山人書　松廼舍氏所藏
□同上自筆日記　（黒須氏本）　黒須三松氏所藏
□三代目中村仲藏自筆『手前味噌』の稿本
□同上演劇書留本

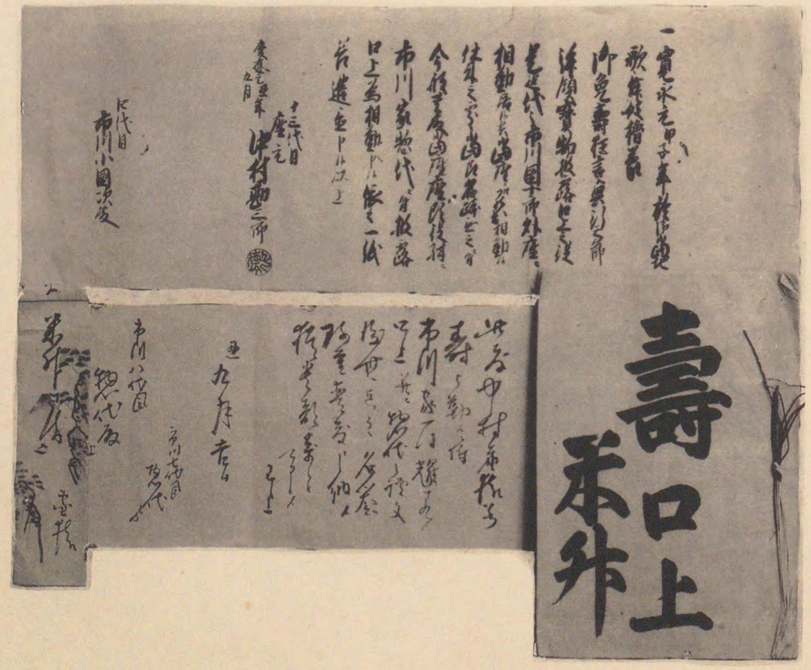


寿命の上に

（中略）

（中略）

（中略）



□正徳追善曾我　松廼舎氏所藏

一冊は木版にて四冊の書画は古獏阿彌の所寫にかゝるものにて、巻末に七代目團十郎の識語あり。三升屋二三治劇場書留中にも此書のことあり。

□中村座壽狂言口上書類　市川左團次氏所藏

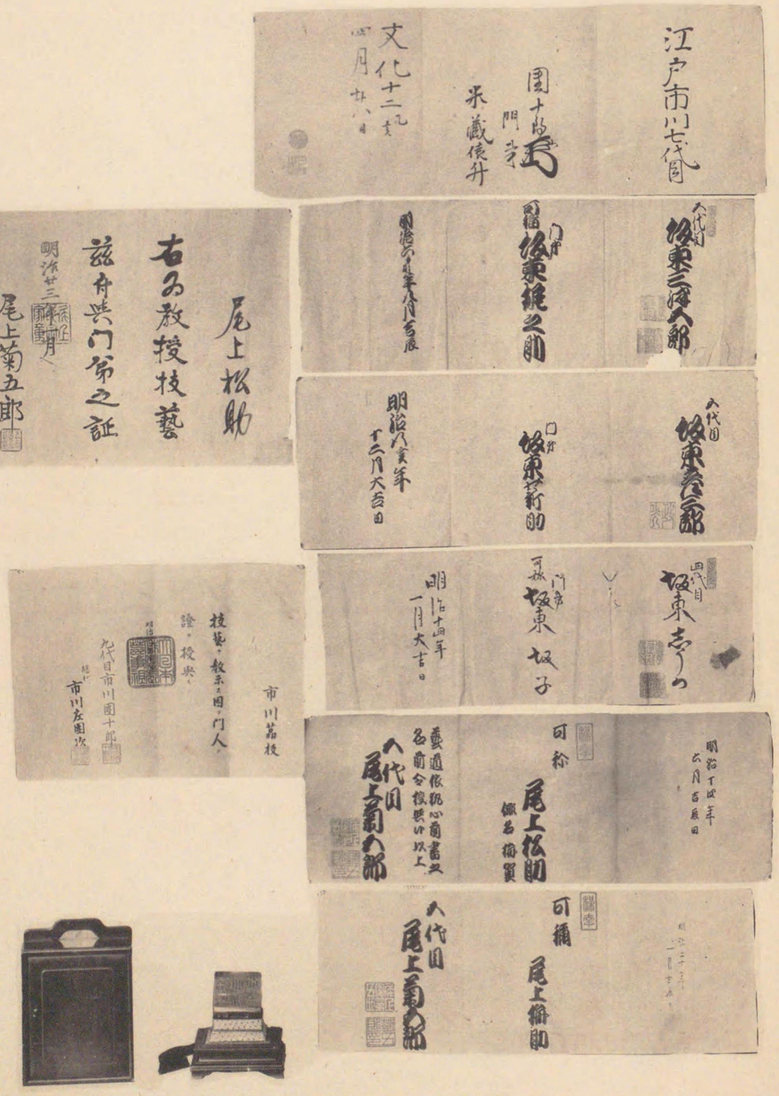
慶應元年、中村座顔見世狂言に際し、口上を演ふべき、七代目八代目團十郎共に沒後にて、九代目は未た河原崎を名乗りゐたるより、四代目小團次に代らしめたるものにて、當時最とも榮譽あることゝしたりしなり。

市川 水 谷 大 沢 会 呉 犬 雪
吉 口 田 谷 上 木 土 原 村
大 沙 沙 沙 沙 沙 沙 沙 沙
河 河 河 河 河 河 河 河 河
原 地 桑 原 原 原 原 原 原

●雨降るときの心得へ

□三月四十過ぎると　四月七十歳へ
□五月三十五日過ぎて　時が過へ
□五月五日菖蒲湯へ　病難へ
□四月二十日頃へ　延年へ
□五月節句前後へ　流行へ
□五月節句後へ　神仏へ
□六月節句前へ　祭礼へ
□五月節句後へ　祭礼へ
□梅雨入前後へ　祭礼へ

□蔀株売家の水晶町



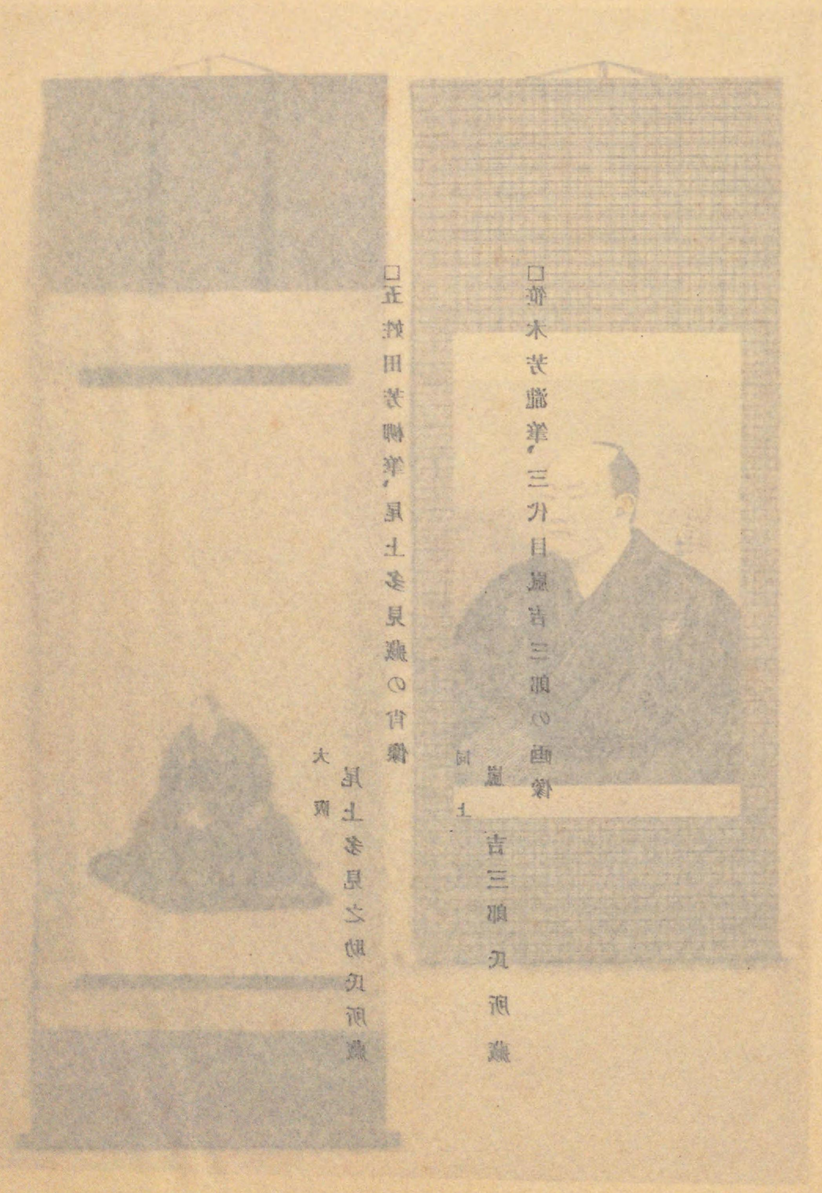
◉師範状のいろ〳〵

□七代目團十郎より　四代目小團次へ
□五代目三津五郎より　梶之助へ
□五代目彦三郎より　薪助へ
□四代目しうかより　坂子へ
□五代目菊五郎より　松助へ
□五代目菊五郎より　梅助へ
□五代目菊五郎より　松助へ
□九代目團十郎より　荔枝へ
□澤村宗家の水晶印

市川左團次氏所藏
水谷幻花氏所藏
鈴木梅鶯氏所藏
水谷幻花氏所藏
尾上松助氏所藏
鈴木梅鶯氏所藏
尾上松助氏所藏
久保田米齋氏所藏
澤村宗十郎氏所藏

口尾上松緑の木像

寺島里氏所藏



□奇木芳藏筆，三升目嵐吉三郎の画像

嵐吉三郎久阿藏

同上

□正鉞田芳輔筆，風土參見藏の肖像

風土參見之助久阿藏

大南

□五姓田芳柳筆、尾上多見藏の肖像

大阪　尾上多見之助氏所藏

□笹木芳瀧筆、三代目嵐吉三郎の画像

同上　嵐吉三郎氏所藏

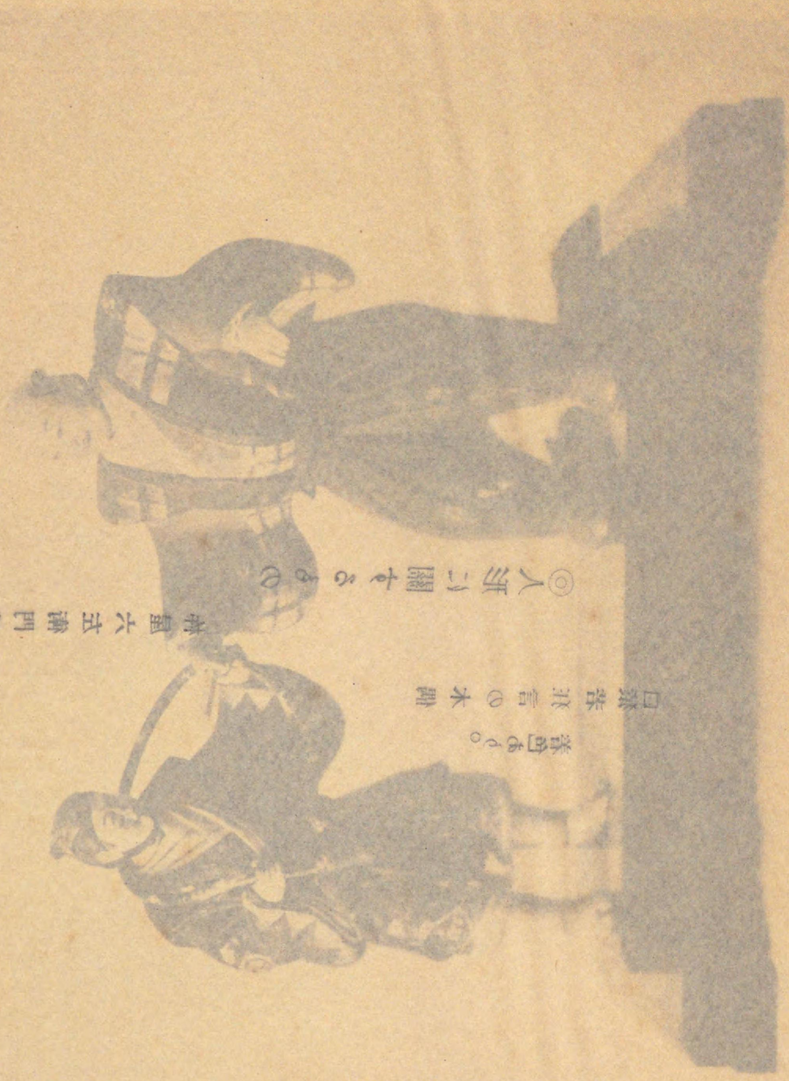
眞寫の印度□
□金剛界四佛
音聲菩薩如來
□□□□□□□□
□□□□□□□□
□□□□□□□□

□澤村田之助の寫眞

□仝上、落合芳幾筆の錦繪

錦繪は、寫眞をそのまゝ描寫したるもの也。

菅原敎造氏所藏



◎人形に関わるもの

日露戦争の大砲

英国ヴィクトリア女王

◎人形に關するもの

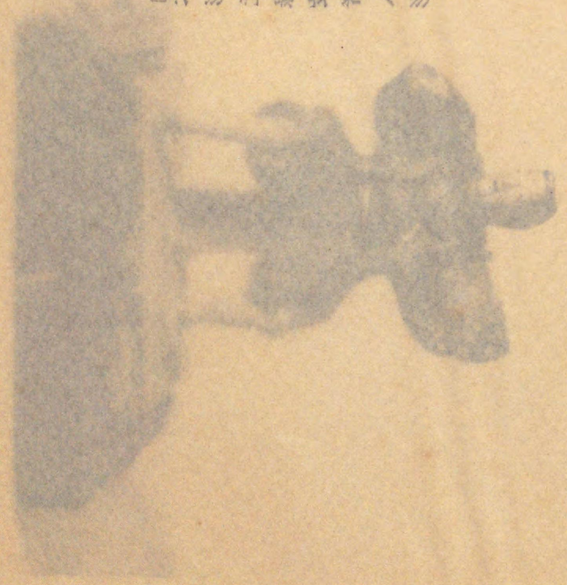
杵屋六左衛門氏所藏

口猿若狂言の木偶

着色あり。

口分良熟道三合潮門の土間

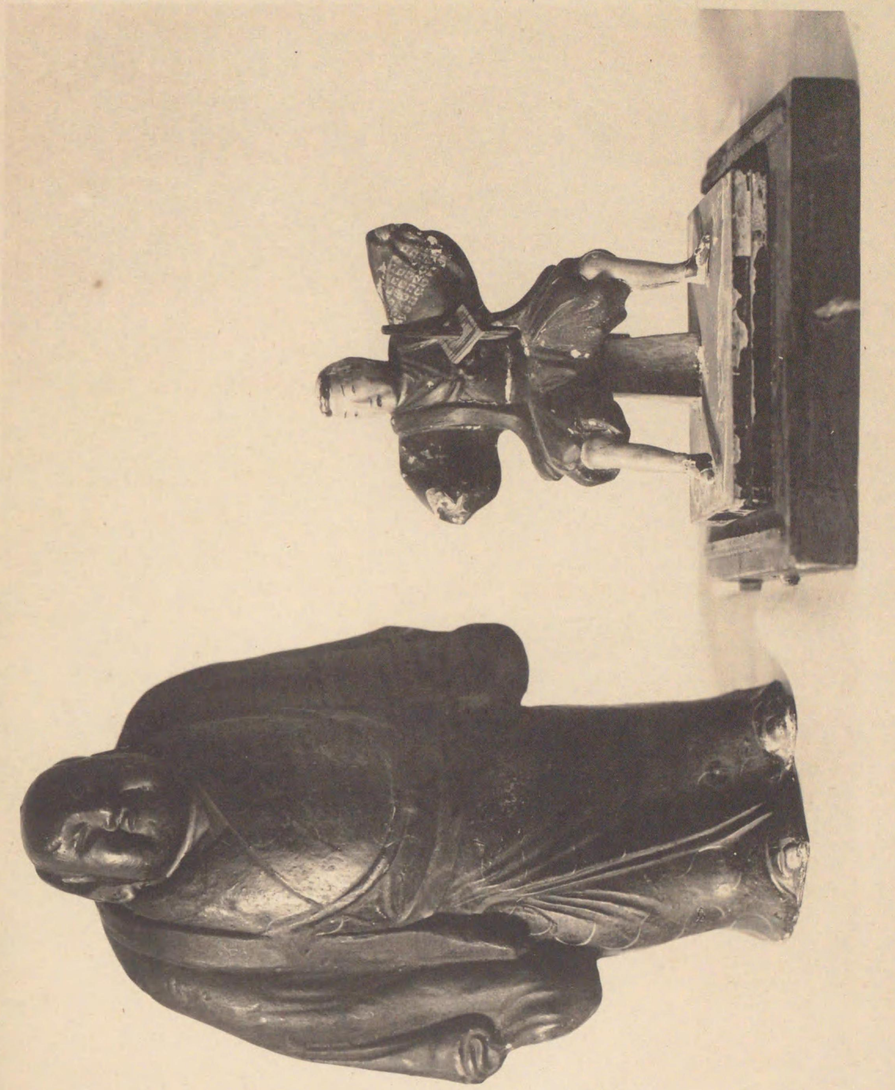
西彩笛焼刃河藏



口木瀬元鏑安巻人汲

着色もの。

瀬隣灵正鴉刃河藏



廣瀬辰五郎氏所藏

西澤笛畝氏所藏

口木彫元祿役者人形
着色あり。

口伏見燒嵐三右衛門の土偶

□五分目另土條五個別處交愛人派

□八分目市四個十個別處交愛人派

□五分目長牛四個別處交愛人派

林　雅文刃預藏

[illegible]三刃預藏

齋藤隆三氏所藏

林　群丈氏所藏

□五代目岩井半四郎似顔衣裝人形

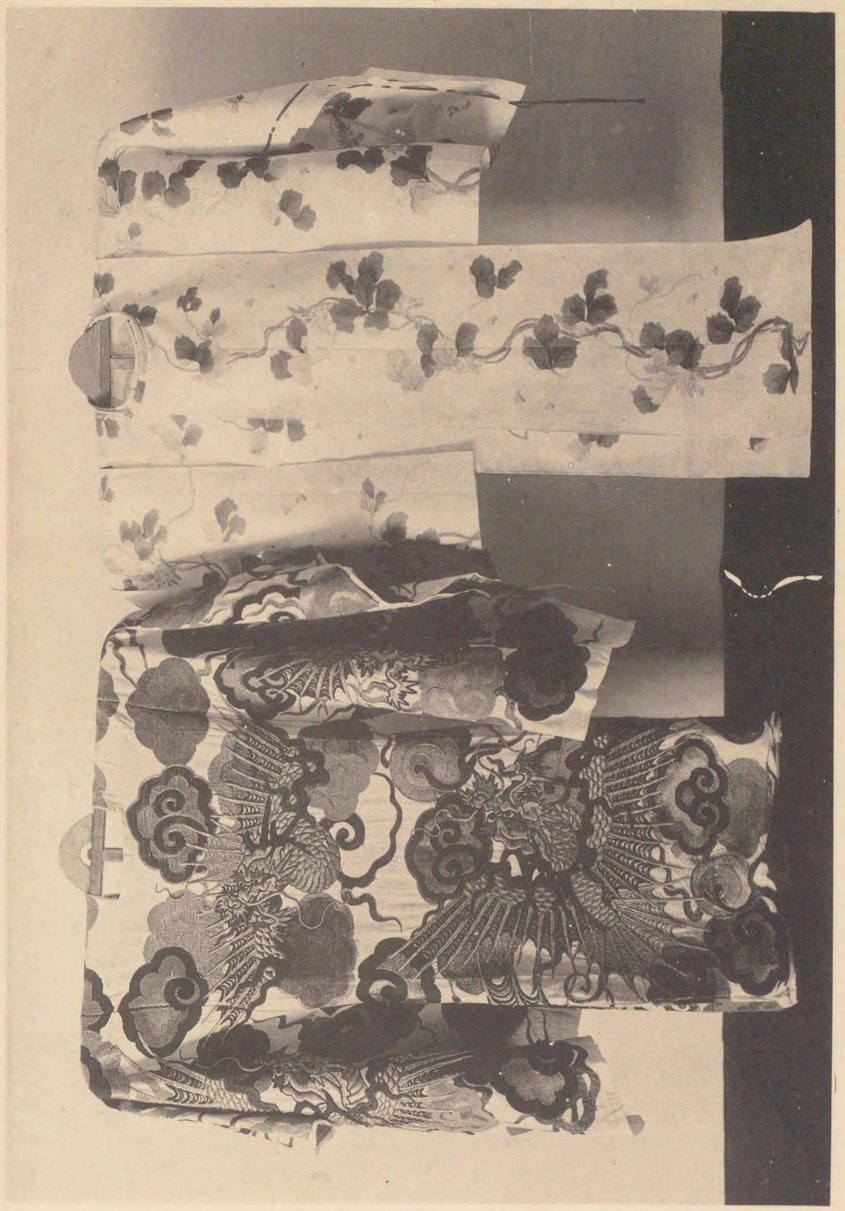
□八代目市川團十郎似顔衣裳人形

□五代目尾上菊五郎似顔衣裳人形

◎衣裝及び髪に關するもの

□久保田米僊自筆墨繪、昇鯉の裲襠　中村歌右衛門氏所藏

「御所の五郎藏」狂言の傾城皐月にて用ひしもの。



三越衣裳部所藏

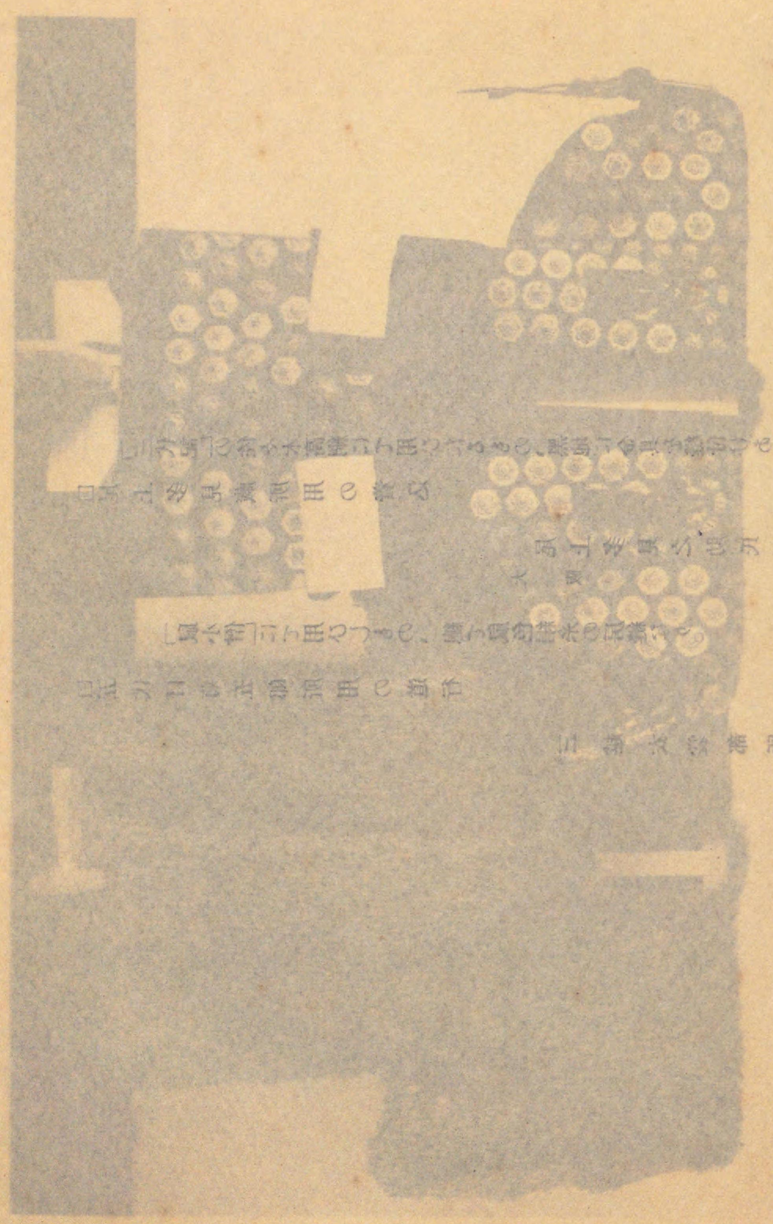
口九代目團十郎所用の狩衣

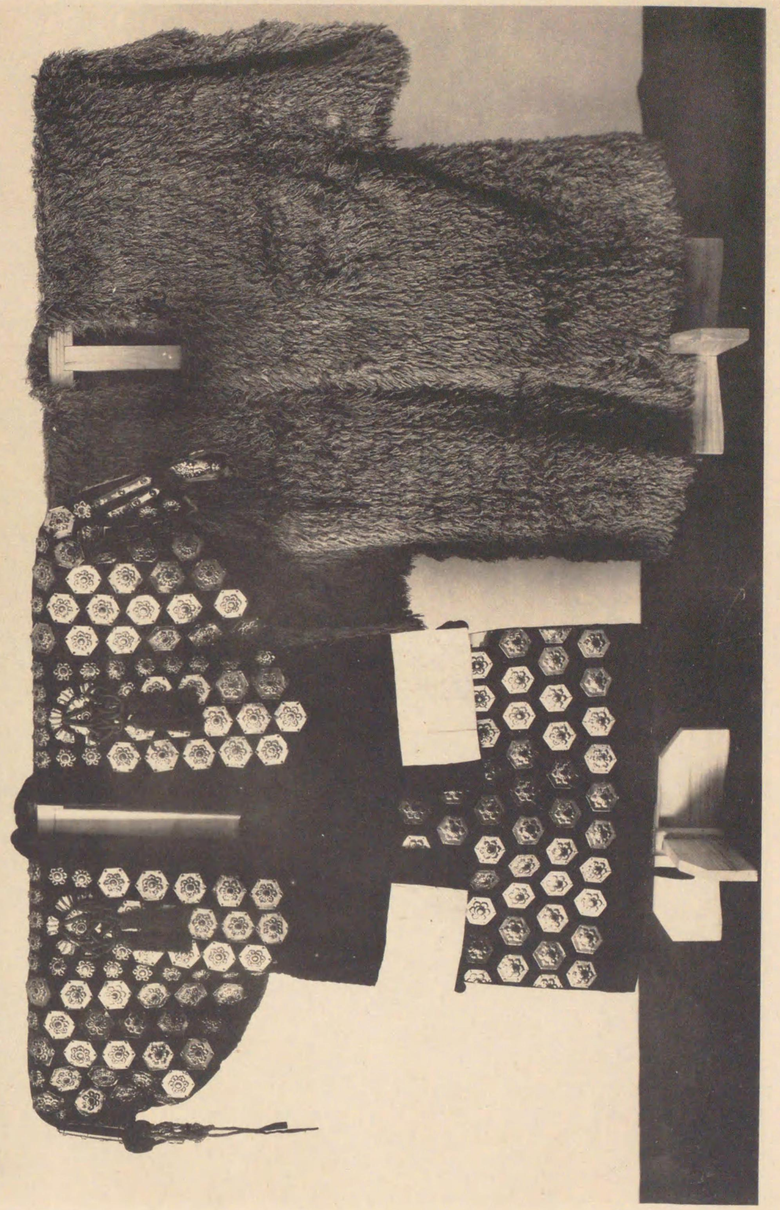
仲國の役にて用ひしもの、白の龍文地に彩色にて葛の文様あり。

この下圖は野口小蘋女史なり。

口五代目菊五郎所用の唐裝束

和藤内の後の出にて用ひたり、白の眞岡木綿地に雲龍の刺繍を施したり。





三越呉服部所蔵

口五代目菊五郎所用の道行

「鼠小僧」にて用ひしもの、總て鼠色絹糸の房縫なり。

大阪 尾上多見之助氏所蔵

口尾上多見藏所用の着込

「三代記」の佐々木高綱にて用ひたるもの、黒地に金具を縫付けあり。

佐藤はま子嬢所藏

肉襦袢

大瀧勝次郎氏所藏

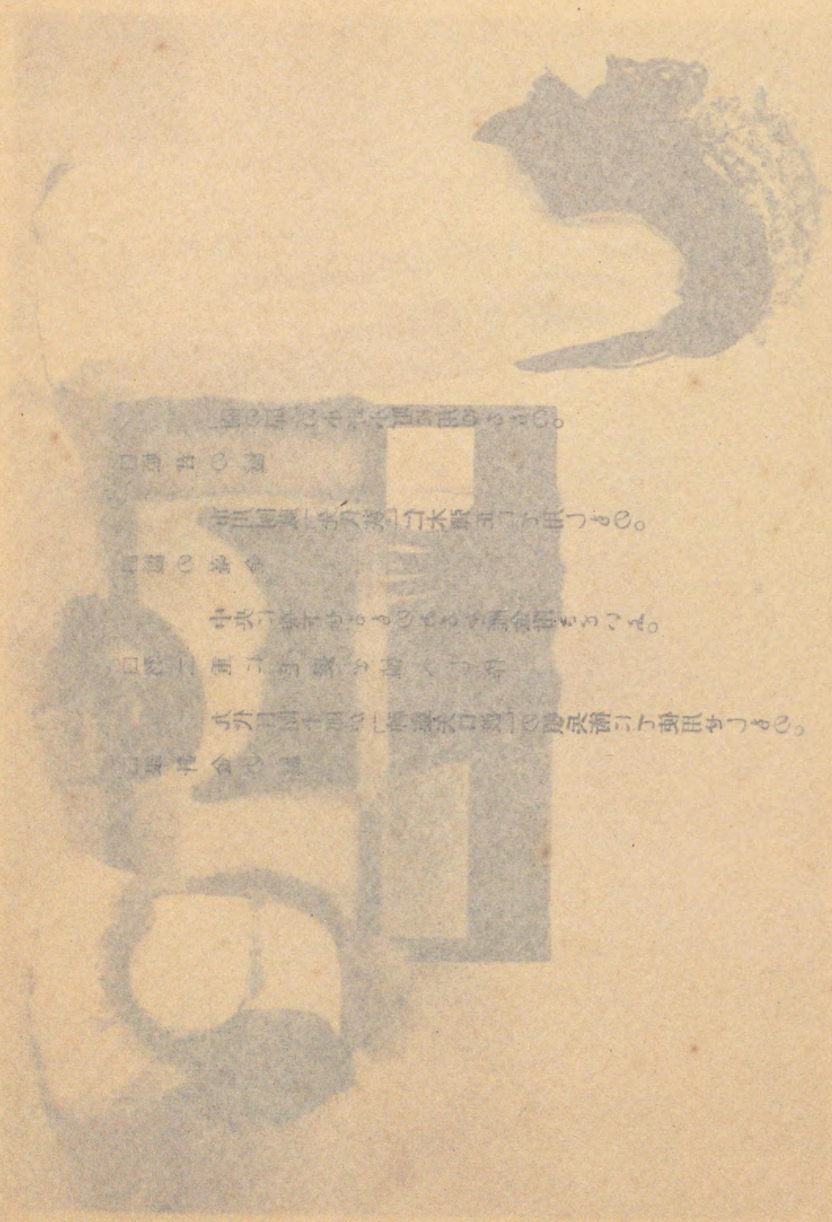
九紋龍史進の

使用

八、女

九、川市口

扇　榔櫛　画



□銀針金の鬘

九代目團十郎が「神靈矢口渡」の頓兵衛にて使用せしもの。

□羽二重に毛髮を植へし枠

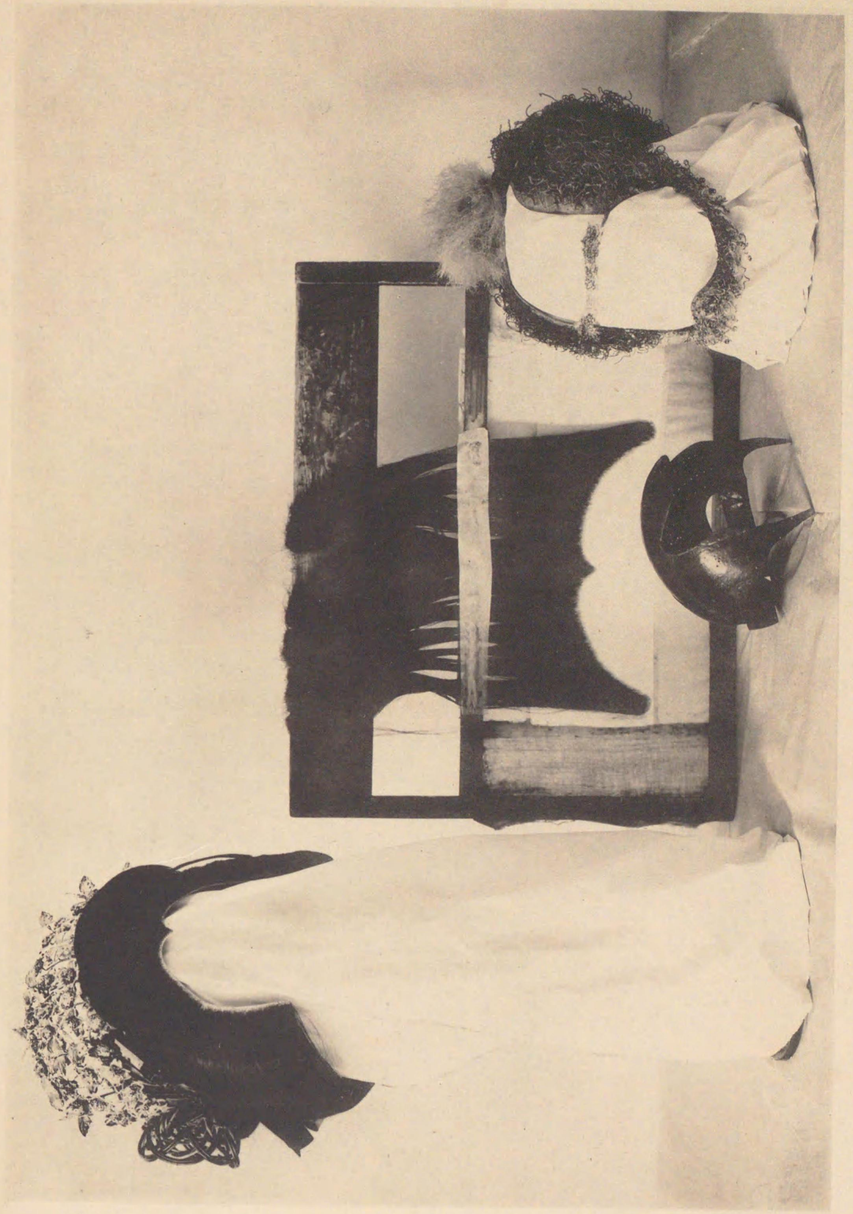
中央に垂下せるものあるを雁金附きといふ。

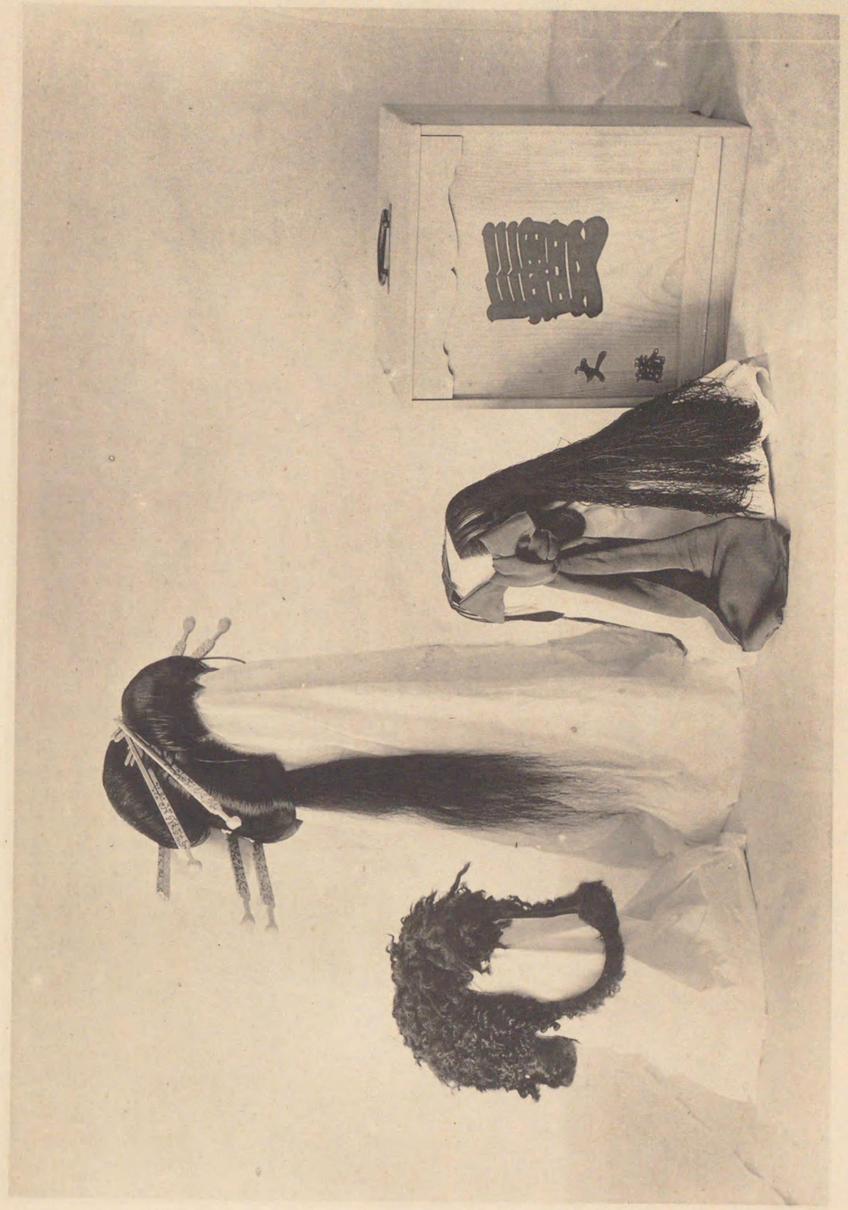
□鬘の臺金

市川團藏「先代萩」仁木彈正にて用しもの。

□姫君の鬘

「關の扉」の小野小町に用ゆるもの。



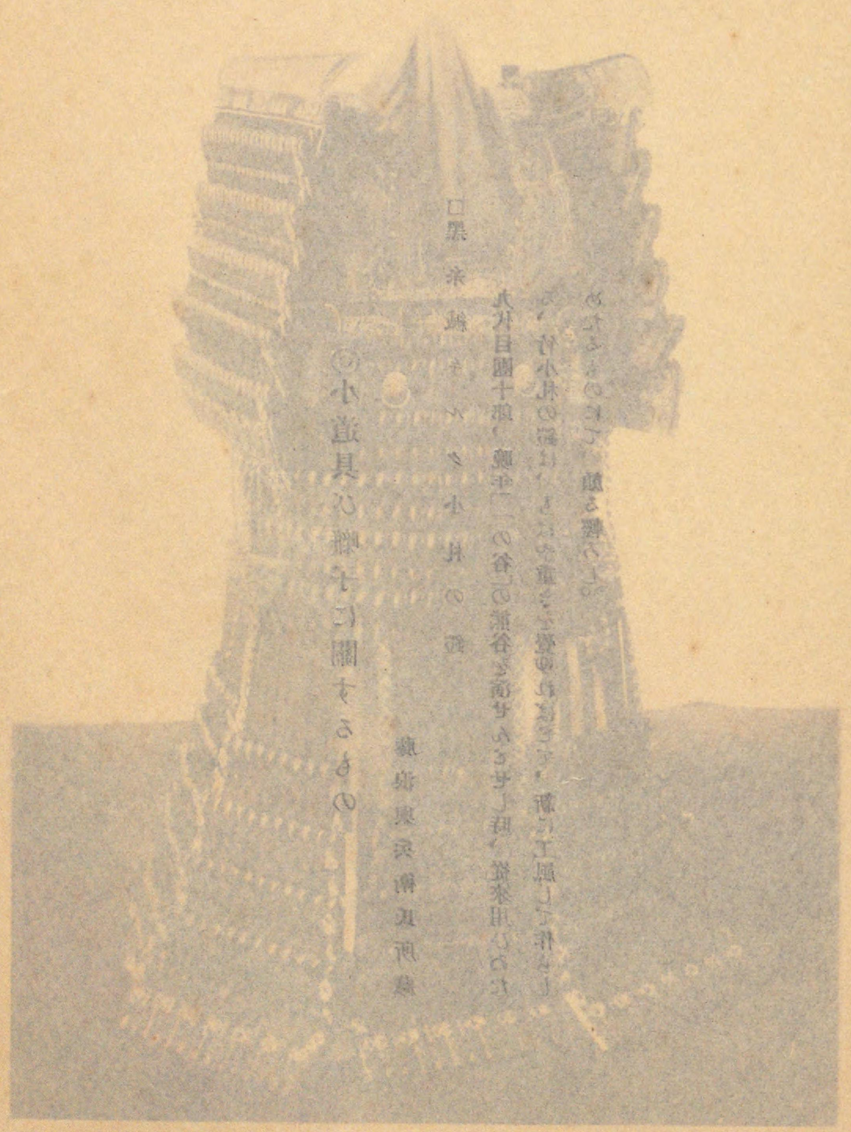


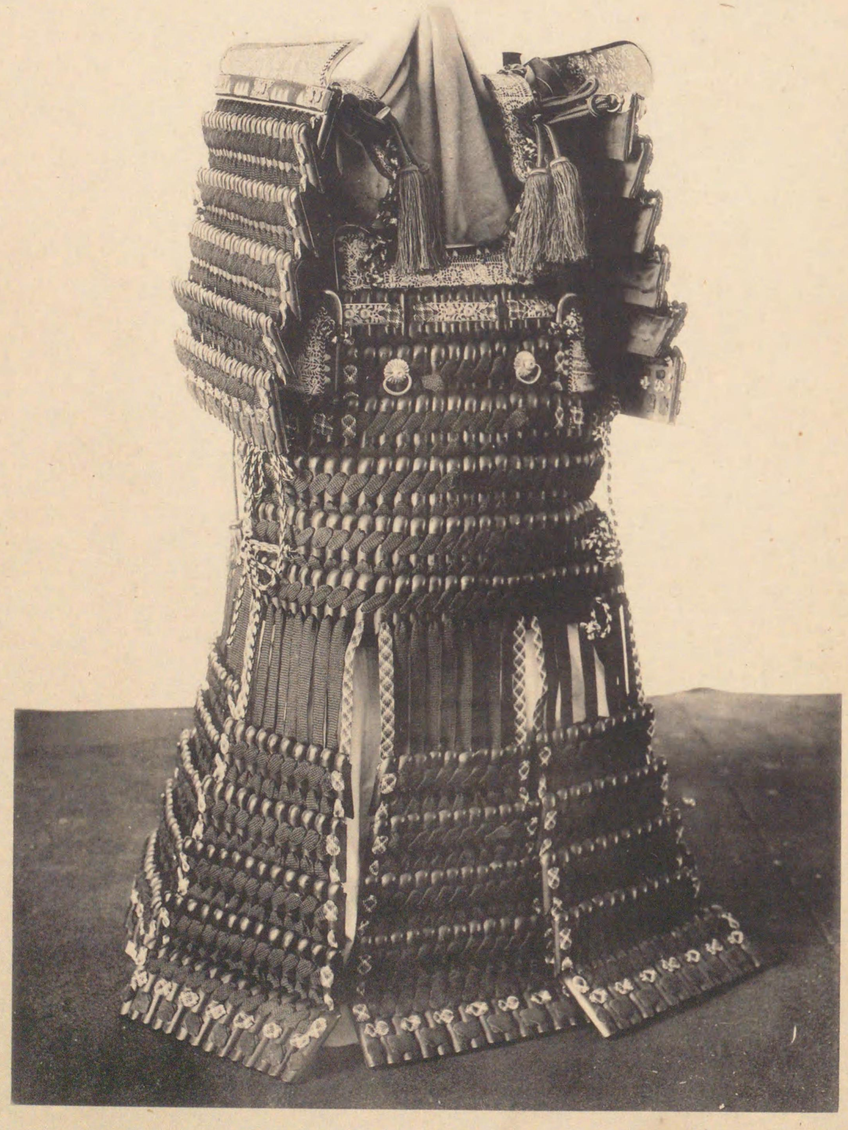
大瀧勝次郎氏所藏

□絹糸の鬘
保名狂亂に用ゆるもの。

□「關の扉」黑染の鬘

□縮れ毛の鬘
市川左團次か毛剃九右衛門にて用ひしもの。



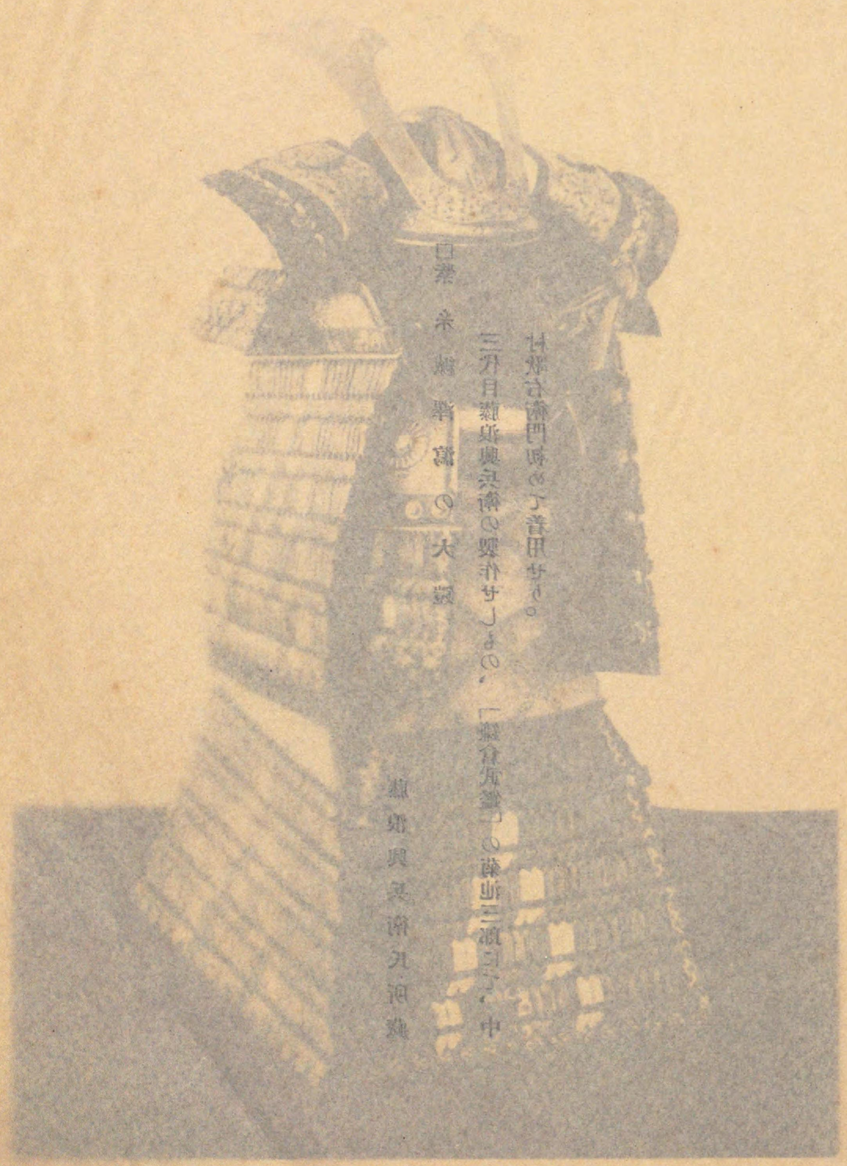


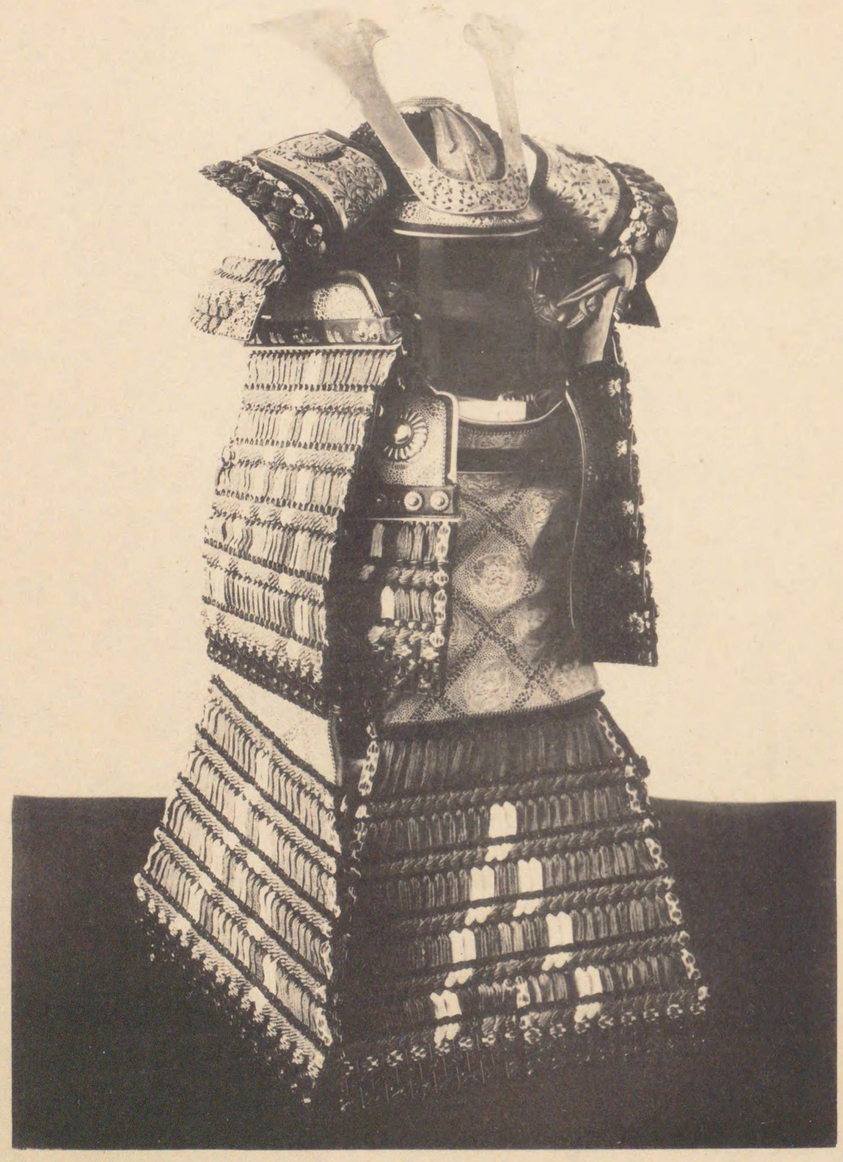
◎小道具び囃子に關するもの

藤浪與兵衛氏所藏

□黒糸縅キルク小札の鎧

九代目團十郎、晩年「一の谷」の熊谷を演せんとせし時、從來用ひゐたる、竹小札の鎧は、もはや重きを覺ゆればとて、新に工風して作らしめたるものにて、頗る輕ろし。

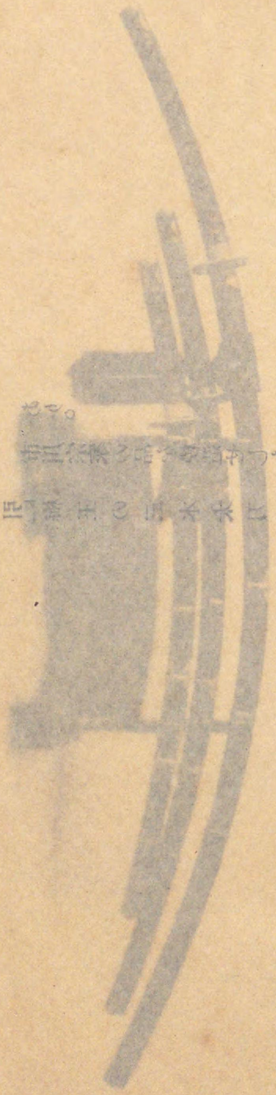


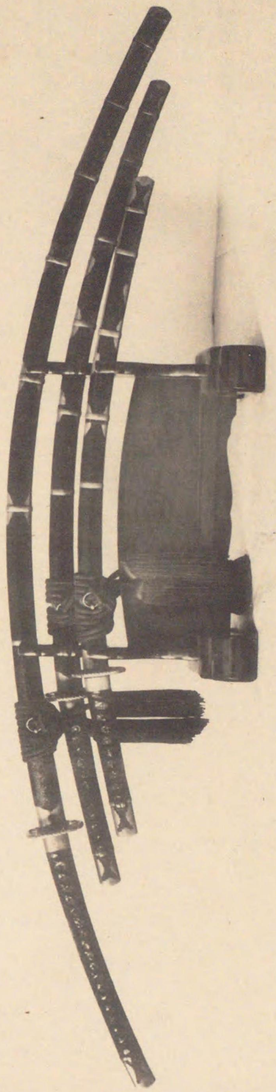


藤浪與兵衛氏所藏

口紫糸縅澤瀉の大鎧

三代目藤浪與兵衛の製作せしもの、「鎌倉武鑑」の菊池三郎にて、中村歌右衛門初めて着用せり。

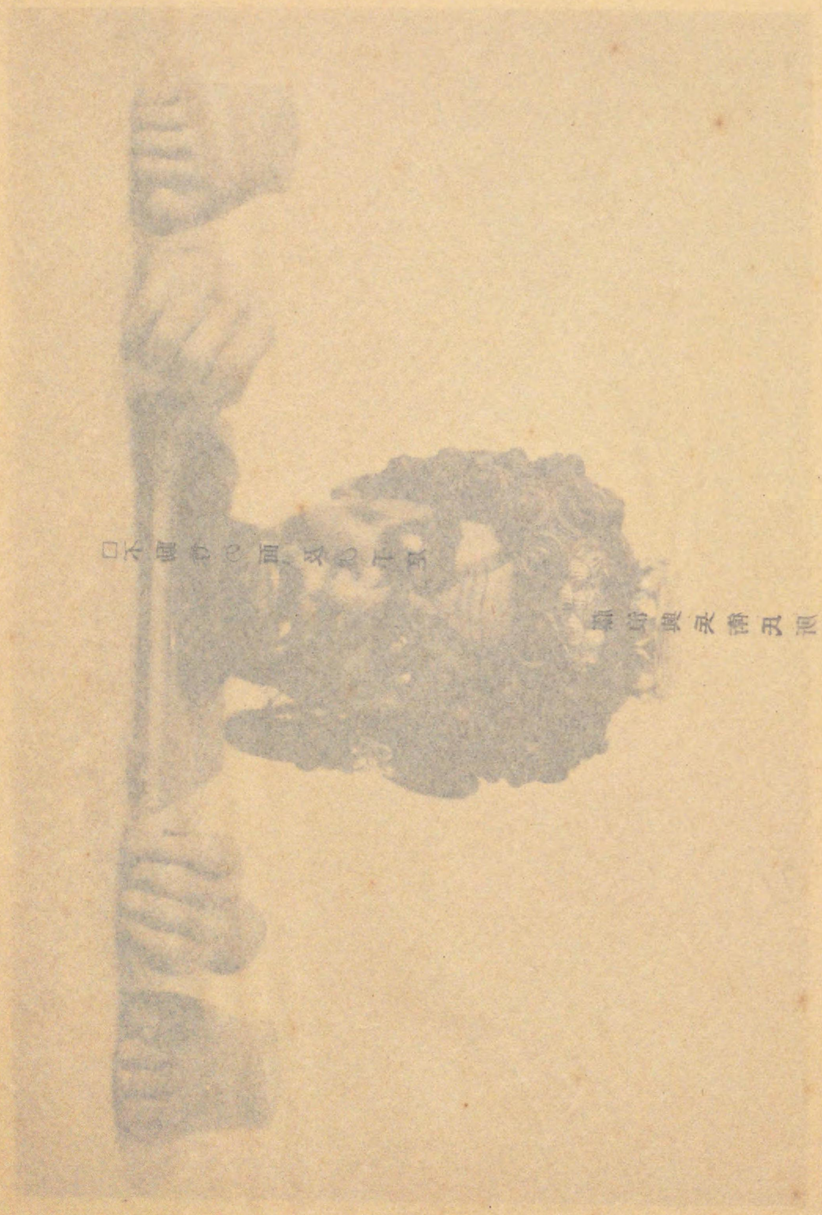




藤浪與兵衛氏所藏

口「車引」梅王の三本太刀

市川宗家の品を模造せしものにて、朱塗の刀掛には同家の紋散しあり。

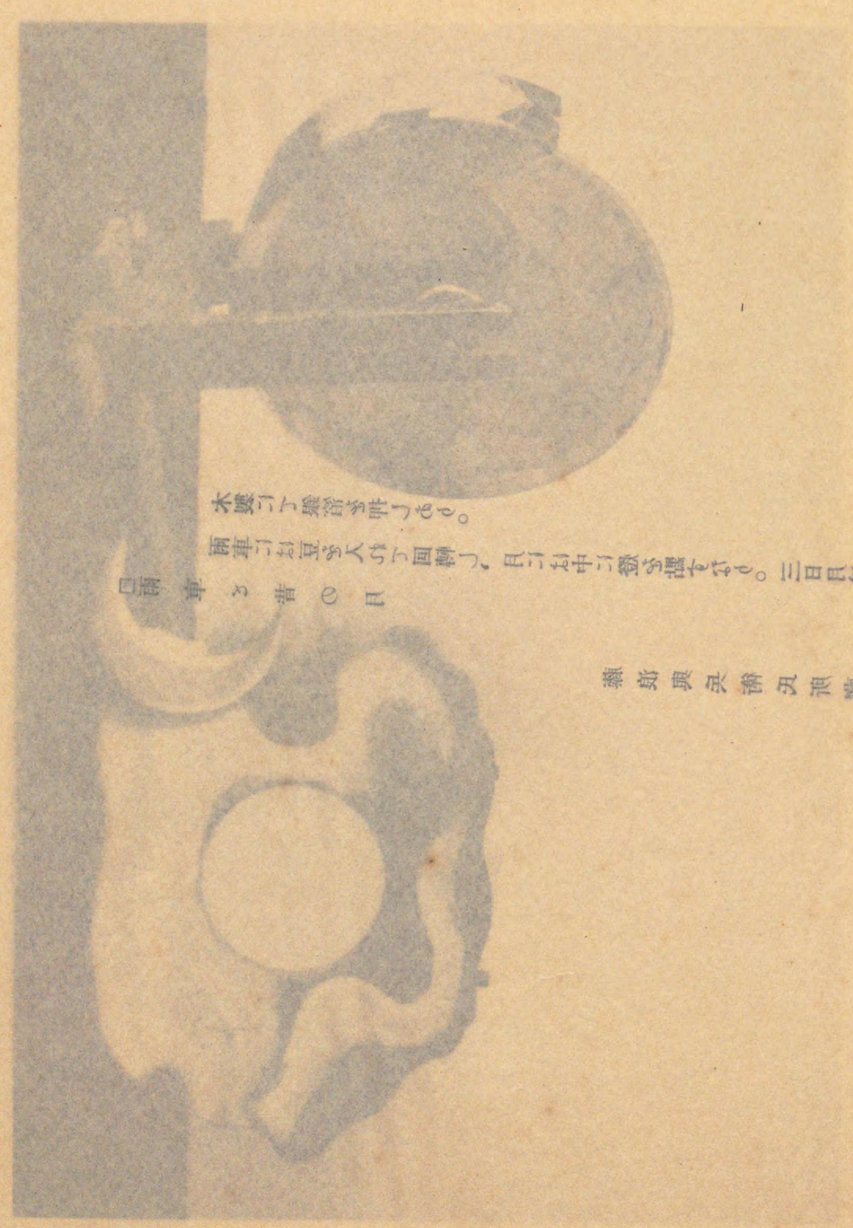


口不慎行心面、又心干寡

蘇府興吳蕭丹泗纖

藤浪與兵衛氏所藏

口不動尊の面、及び手足

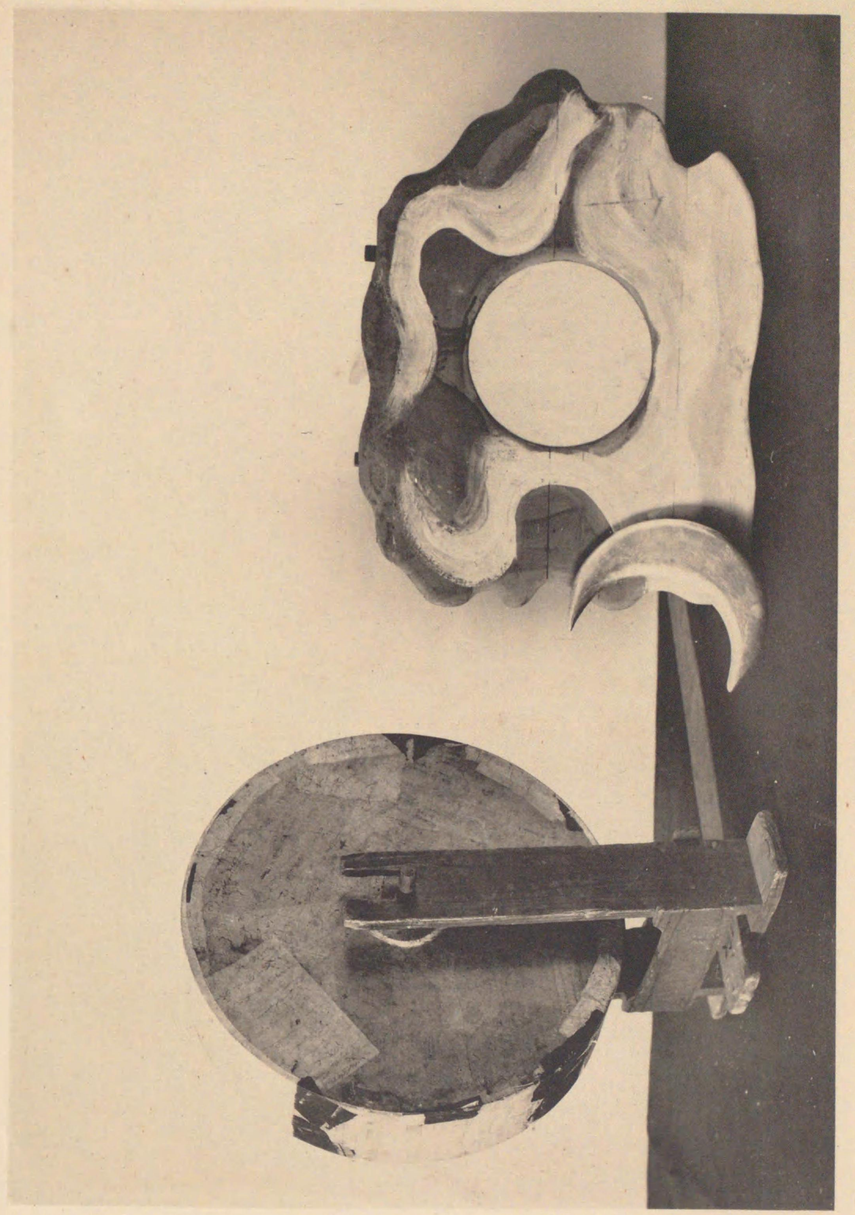


木嫁ニテ爲溶ヲ畔ルモノ。

雨車ニ於豆ヲ入ルテ回轉ル、且ニ於中ニ發ヲ濕セルモノ。三日目ニ於

四雨車ヲ昔の日

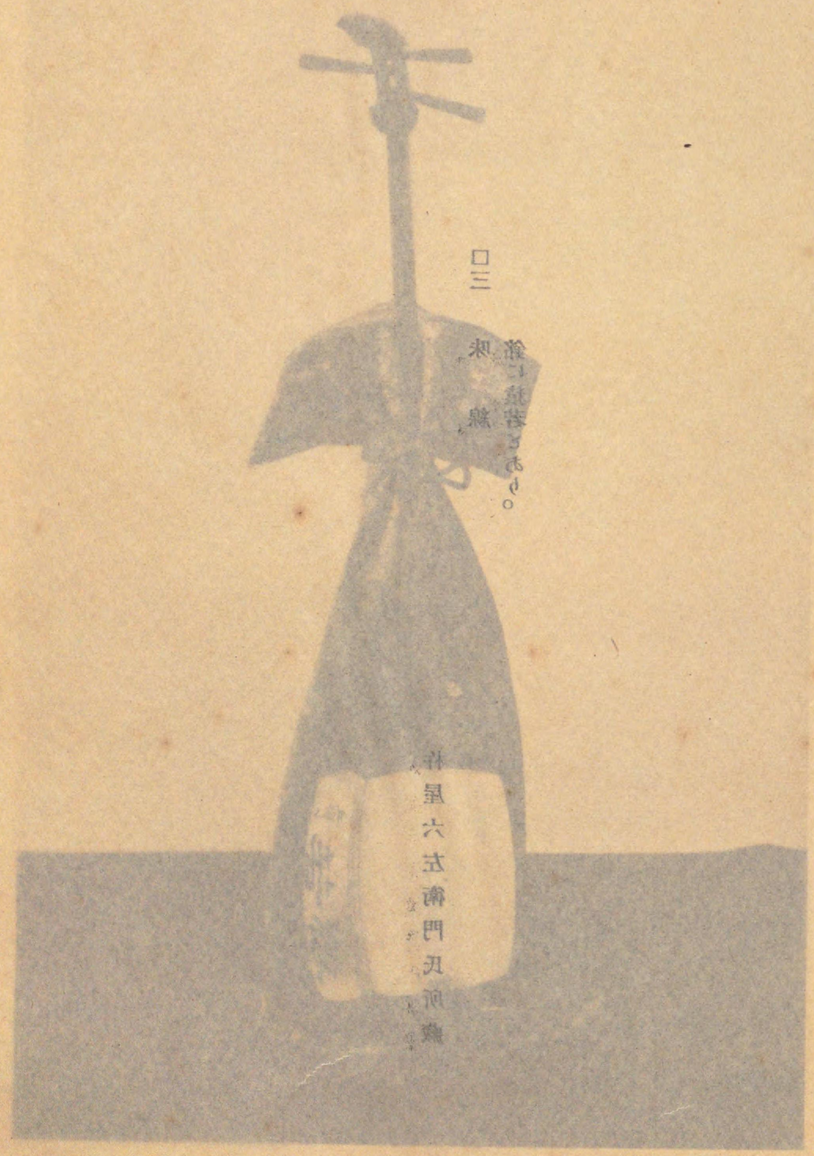
蘇妨與吳滂汎浪嫌

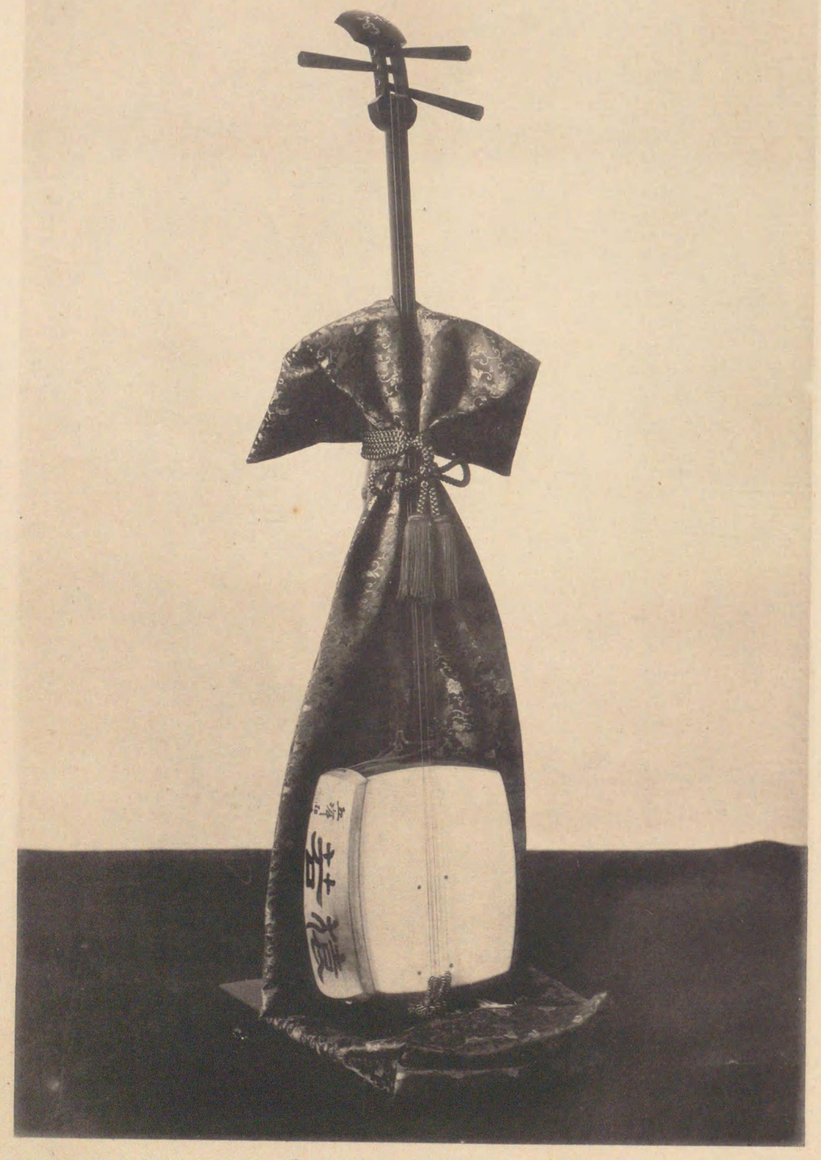


藤浪與兵衛氏所藏

口雨車と昔の月

雨車には豆を入れて回轉し、月には中に燈を點すなり。三日月は木製にて銀箔を押しあり。

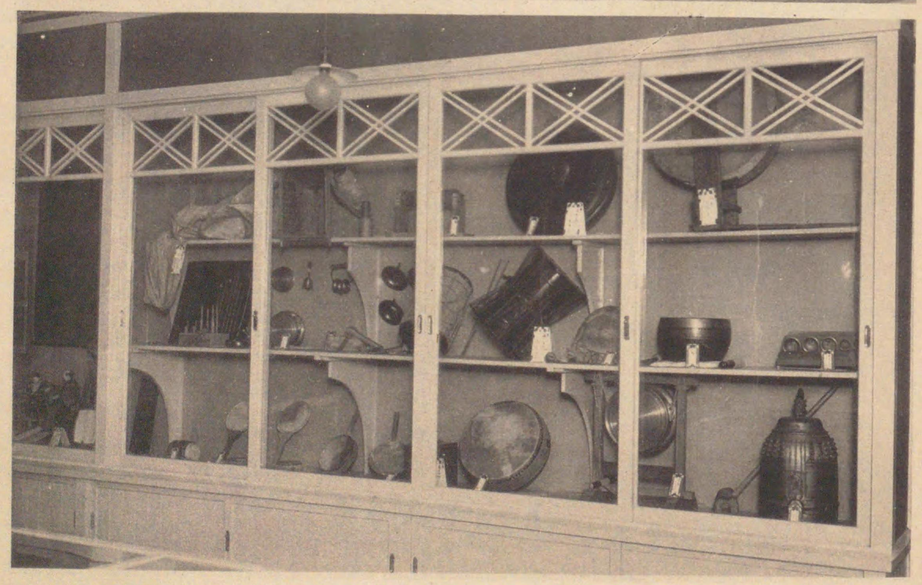




口三　味線

銘に猿若とあり。

杵屋六左衛門氏所藏



□視友社文士劇衣裳　石橋思案外史氏所藏

上部右端のもの、それにして武内桂舟の筆に成りしもの

□小道具類　藤浪與兵衛氏所藏

□劇場使用の樂器類　東京音樂學校所藏

釣鐘、六百形行人、伏鉦、宗盤、木魚、磬、大銅羅、松虫、大拍子、太鼓桶胴、平太鼓、豆太鼓カンカラ、團扇太鼓、樂太鼓、拂附太鼓、四ツ竹、チャッパー、風車、砧、小鈴、驛呂、リン、オルゴール、竹小笛類、打盤等にて三味線及び大小の鼓と大太鼓はこれを畧したり。